第二章　北樺太利權關係諸問題

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1679
http://www.jacar.go.jp

第二章　北樺太利權關係諸問題

第一節　北樺太石油株式會社利權

第一款　北樺太石油株式會社ノ事業現況

第一項　會社ノ組織資本金及配當

北樺太石油會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書乙第一號ニ基ク石油利權契約及北樺太利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ基キ北辰會ノ事業ヲ繼承シ大正十五年六月設立セラレタルモノニシテ同利權契約ニ基キ北樺太ニ於ケル八ケ所ノ油田約四六平方露里（一千五百八十九萬七千餘坪）ノ五割ニ對スル採掘權（四十五ケ年ノ期限）及同地方ニ於ケル十一地域一千平方露里（三億四千四十二萬五千餘坪）ノ試掘權（大正十四年十二月十四日ヨリ起算シ十一ケ年ノ期限）ヲ有シ專ラ石油ノ採取及賣買ヲ營業トシ居ル處會社設立當初ノ資本金一千萬圓ハ事業ノ擴張ニ伴ヒ昭和六年七月二千萬圓ニ增額セラレ增資新株ニ付同年八月、昭和八年六月及昭和九年十一月夫々二百五十

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1671

萬圓宛ノ拂込アリタル結果拂込資本金ハ現在一千七百五十萬圓トナリ居レリ一方會社ノ營業成績ハ昭和五年度迄ハ逐年向上ノ一途ヲ辿リ八分ノ配當ヲ持續シタルカ昭和六年度ヨリ稍々底下シ殊ニ期限完了期切迫セル試掘事業ニ多大ノ經費ヲ要スル關係モアリテ其配當率ノ如キハ昭和七年度七分昭和八年度六分昭和九年度五分ト年々遞減シ昭和十年度ハ遂ニ無配トナルニ至レリ

第三項　社長ノ更迭

昭和十年七月臨時株主總會開催ノ結果本會社創立以來社長タリシ海軍中將中里重次ハ辭任シ前海軍次官左近司政三中將其後ヲ襲ヒ且財界ヨリ松村松次郎入リテ常務取締役トナリ經理部長ヲ兼ネ又海軍少將小泉武三モ常務取締役ニ就任シテ業務部長ヲ兼任セリ

尙右三氏以外左ノ諸氏モ重役トシテ前記株主總會ニ依リ選出セラレタリ

橋本　圭三郎（日本石油社長）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1678
http://www.jacar.go.jp

伊藤　文吉（日本鑛業社長）
崎川　才四郎（前特許局長官）
津下　紋太郎（日本石油取締役）
矢島　富造（住友重役）
倉知　鐵吉（勅選議員）
川手　捨二（三菱鑛業重役）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1673
http://www.jacar.go.jp

第三項　試掘

會社ハ北樺太東海岸十一地方一千平方露里ノ地域ニ亘リテ有スル試掘權ニ基キ過去十年間ニ七地方十六區域二十二井ノ試掘ニ着手シ内作業完成セシモノ七井成功シテ出油ヲ見タルモノ三井アル處、十一ケ年ノ試掘期限モ愈々昭和十一年十二月十四日ヲ以テ終了スルコトトナリ居ル爲一面ニ於テハ試掘期限五ケ年延長ノ交渉ヲ「ソ」側ニ對シ行フト同時ニ他面試掘作業ノ促進ニ力メ次項ニ述フル如ク政府助成金ヲ含ム巨額ノ資金ヲ投シテ鋭意殘存區域ノ試掘事業ニ力ヲ注キ居レリ

即チ昭和十年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續中ノ「エハビ」第一區二號井同第二區一號井同第三區一號井同第四區一號井「ボロマイ」第一區二號井同第三區一號井北「バターシン」第一區一號井南「バターシン」第一區一號井同第二區一號井「カタングリー」第三區二號井第五區一號井ノ外新規ニ北「オハ」第二區一號井「エハビ」第三區

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1674

二號井「カタングリー」第四區一號井同第五區二號井「クキヅラニー」第一區一號井ノ試掘ニ着手セリ而シテ右試掘井ノ内昭和十年度中掘鑿ヲ完了セシモノハ「エハビ」第二區一號井「ボロマイ」第三區一號井北「バターシン」第一區一號井「カタングリー」第五區一號井ノ四坑井ニシテ其内「エハビ」第二區一號井ハ深度六五三米ニシテ油層ニ達着シ試驗採油ノ結果相當多量且極メテ良質ノ原油ナルコト判明シタルカ他ハ皆不成功ニ終リタリ

尚目下掘鑿中ナル前述「エハビ」第一區二號井モ深度僅カ一一九米（豫定深度八〇〇米）ニテ良質ナル油層ヲ發見シ目下試掘採油中ナルカ是亦極メテ有望ナル趣ナリ

昭和十一年度以後ノ計畫トシテハ十年度ヨリノ繼續作業ノ外ニ十一年度ニ於テ「クイドラニー」一區二號井、「ボロマイ」二區一號井北「バターシン」一區二號井、「コンギ」一區一號井及二區一號井ノ五井、十二年度ニハ「エハビ」四區二號井、「ボロマイ」三區二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1675

號井、「カタングリ」四區二號井、ノ三井、十三年度ニハ北「オ」「ボロマイ」二區二號井、「バターシン」一區二號井、二區二號井、南二區二號井ノ四井ノ試掘ニ夫々着手シ昭和十五年末迄ニ是等ノ試掘作業ヲ完了スル豫定ナリ

第四項　試掘事業資金

會社試掘事業ノ爲ニ投下セラレタル資金ハ昭和十年度末迄ノ處累計約一千萬圓ニ達シ居リ此内政府ヨリ下附セラレタル試掘助成金ハ二百八十萬圓（昭和七年度十萬圓、八年度二十八萬四千圓、九年度百二十一萬六千圓十年度（豫算）百二十萬圓）ナルカ、昭和十一年度以降十六年度ニ至ル試掘事業ノ所要總經費ハ一千五十七萬余圓ニシテ政府ハ右ノ略々半額ニ相當スル四百九十三萬余圓ヲ十一年度以降五ケ年ニ分チ助成金トシテ交付スルノ案ヲ有シ之ト同時ニ會社ヲシテ三百萬圓ノ社債ヲ發行セシメテ政府ニ於テ其ノ元利支拂ヲ保證シ又會社ヲシテ八百萬圓程度ノ增資ヲ斷行セシメ以テ試掘費ノ殘余ノ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1676

半額ニ充ツルト共ニ採油井ノ積極的增加ノ爲ノ費用ニ當テシムル計畫ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－16ア

第五項　抹油

昭和十年度ハ前年度同様試掘事業ニ莫大ノ資本投下ヲ要シタル結果資金難及従業員ノ手不足等ノ關係上抹油方面ニ積極的活動ヲナスコト能ハサリシ爲其抹油量ノ如キモ漸次逓減スルノ已ムナキ狀態ニ在リ

目下抹油中ノ一オハ一（北一オハ一ヲ含ム）抹掘鑛區ニ於テハ本年度ニ於テ十七基ノ新坑井掘鑿、舊坑井ノ追掘七基、前年度ヨリノ繰越井掘鑿三基、舊坑井ノ改修六基ノ計畫ヲ立テ十月十八日現在ニテ坑井櫓數一八八基ヲ有シ（其内抹油井一六四基櫓建終了井六基掘鑿井四基改修井一基休止井一一基廢坑井一基試掘井一基）昭和十年度當初ハ日産約四百五十瓲内外ナリシカ其ノ後幾分增加シ最近ハ約五百瓲ヲ上下シツツアル狀態ナリ

斯クテ昭和十年度上半期（自四月一日至九月末）ノ實際抹油總量ハ七九、五四六瓲ニシテ前年度ノ同期ニ比シ七、六九二瓲ノ減少又前

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1678

前年度ニ比スレハ實ニ二〇、九四〇噸ノ激減ヲ示セリ而シテ昭和十年度ノ採油計畫量ハ一二八、三〇〇噸ナルカ現在ノ產油狀態ヨリ推察セハ實際採油量ハ尠クトモ十五萬噸ヲ下ラサル豫想ナリ

次ニ昭和九年度一時採油事業ヲ復活セル一カタングリー採油鑛區ハ前述ノ理由ニ依リ昭和十年再ヒ之ヲ休止シ居リ只現在セル採油井六基ヨリノ產油ヲ以テ同地方ニ於ケル試掘事業及其他ノ油脂燃料ニ充テ居レル有様ナリ因ニ同地採掘鑛區ハ十一年度ニ於テ相當大規模ニ採油事業ヲ行フ計畫ナル趣ナリ

同參考ノ爲茲ニ數年間ノ會社年別總產油量ヲ擧クレハ左ノ如シ

大正十五年（創立ノ年）	三四、三八三・五噸
昭和二年	七七、一三六・二噸
昭和四年	一八六、六四一・〇噸
昭和六年	一八六、三九二・四噸
昭和八年	一九三、三五五・〇噸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1679

昭和九年　一六一、八四六・六噸
昭和十年　一二八、三〇〇・〇噸（計畫量）

第六項　原油內地輸送

會社ハ同社昭和十年度ノ採油及前年度ヨリノ貯油並ニ「ソー」側石油「トラスト」ヨリノ購入原油ヲ合シ總量二十二萬噸ヲ昭和十年度航海中ニ內地迄搬出スル豫定ナリシ處「ソー」側原油ノ購入激減且時期遲レタル爲（別項參照）終航迄ニ實際搬出セラレタルハ十七萬四千五百八十九噸ニ過キス之ヲ前年度ニ比スレハ六萬五千六百六十三噸又前々年度ニ比シ實ニ十三萬九千三十二噸ノ減少ヲ示セリ

茲ニ創業年度以降數年間ノ原油內地輸送量ヲ示セハ左ノ如シ

大正十五年度　二〇、六〇一・五噸
昭和三年度　八九、五二一・〇噸
昭和五年度　一九八、八二三・〇噸
昭和七年度　三一三、四四九・〇噸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1680

昭和八年度　三一三、六二二・〇噸
昭和九年度　二四〇、三五二・〇噸
昭和十年度　一七四、五八九・〇噸

第七項　鑛區劃定及地質調査

曾社ハ本年度ニ於テ「ソ」側劃定官ト共ニ北「オハ」第二區「カタングリー」第四區及「クキツラニー」第一區ノ各試掘鑛區第一次劃定ヲ實施セリ

又地質調査班ヲ編成シ「ヌトウオ」抹掘鑛區及「クキツラニー」試掘地方ノ地質調査ヲ行ヒタリ

第八項　圖體契約

石油曾社及「ソ」聯邦石油勞働者組合トノ間ニ昭和九年締結セラレタル現行圖體契約ハ昭和八年度ノ夫レニ些少ノ變更ヲ加ヘタルノミニテ更ニ一ケ年延長セラレタルモノナリシカ右期限ハ本年三月一日ヲ以テ滿了シタルニ鑑ミ三月中旬ヨリ莫斯科ニ於テ曾社代表及「ソ

右油勞働者組合側トノ間ニ之カ改訂交渉開催セラレタルカ容易ニ協議
纒マラサリシ爲一先ツ舊契約ヲ九月一日迄其儘有效ト認ムルコトト
シ更ニ之ヲ一ケ月延長シテ交渉ヲ續行シタル結果漸ク十月一日ニ至
リ一オハ一ニ於テ建設中ノ勞働者倶樂部建設費ノ内一ソ一側分擔金
ノ支拂期間猶豫問題及托兒所ノ至急建設等若干ノ事項ヲ除キ其他ハ
大体舊契約ヲ其儘踏襲シ一ケ年間延長スルコトニ協定成立シ本團體
契約締結ニ關スル登記其他ノ手續實施中ノ趣ナリ

第九項　勤勞員及勞働者數

當社ノ北樺太各地鑛場ニ於ケル從業員ハ氣候及事業ノ關係上夏季ハ
多ク冬期ハ減キヲ常態トセル處昭和十年一月一日及八月一日現在ニ
於ケル勤務員及勞働者數左ノ如シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1082
http://www.jacar.go.jp

鑛場地名	國籍	一月一日 勤務員	一月一日 勞働者	八月一日 勤務員	八月一日 勞働者
「オハ」（北「オハ」ヲ含ム）	日露	一四二	三二四	一七一	一七三
「エハビ」	日露	一六	一一三九	二一四	一一六四
「ボロマイ」	日露	一三	六五	一八	九〇
「チヤイオ」	日露	一七	八四	二〇	一六六
「カタングリー」	日露	三〇	二二	三三	一八〇
「クヤドラニー」	日露			七	四六
合計	日露	二一八	一七六	二八九	一七一四
日露合計		二九四	一八六五	三五九	二七三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1082

第十項　來航船舶

昭和十年航海期中（自六月至十月末）ニ來航セル原油積取艦船及貨客船數左ノ如シ

艦船別	隻數	總噸數（噸）	登簿噸數（噸）
軍艦特務艦	一〇	一	一
石油積取船	九	七四六一八	四五一八九
貨客社傭船	一三	三六六〇九	二六一一四
汽船合計	二二	一〇六二二七	六六三〇三
艦船合計	三二		

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1684

第二款　北樺太「ソ」側原油購入問題

我石油會社ハ北樺太產石油ニ對スル「ソ」側以外ノ內外第三者ノ介入ヲ防止スル意味ヲモ加味シ昭和四年以降年々北樺太「ソ」國營石油「トラスト」「サハリンネフチ」ヨリ原油ヲ購入內地ニ輸送シ來リ其購入量ノ如キモ左表ノ如ク「ソ」側事業ノ擴張ニ伴ヒ年々增加シ昭和七年度ノ如キ約十三萬五千噸ニモ達シタル程ナリシカ「ソ」側ニ於テハ兩三年前哈府ニ大製油工場ヲ新設スルト共ニ「オハ」「モスカリオ」港（北樺太西海岸ニ在リ）間ノ「パイプ」ニ依ル送油設備ヲ完了シ海洋河川用運輸機關ヲモ着々建設シ以テ北樺太產原油ノ哈府輸送ヲ開始シタル結果「ソ」側原油ノ購入ハ漸次困難トナリ昭和九年度ノ如キハ前年度ヨリ二萬五千噸ヲ減シテ十萬噸トナリシモ同年十一月末ニ至リ更ニ二萬噸ノ追加購入契約成立シタル爲辛シテ前年度輸入量ニ接近シタリシカ十年度ハ我會社ニ於テ八萬噸購入ノ計畫ヲ立テ本春ヨリ「ソ」當局ト交渉ヲ開始セシモ「ソ」側ハ尤

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1085

大ナル哈府宛原油輸送計畫等ノ關係上頑強ニ賣渡シヲ肯セス折衝ニ折衝ヲ重ネタル結果漸ク原油輸送期ノ終了間際卽チ九月ニ至リ僅カ四萬噸ノ賣渡シヲ應諾セリ依テ同月會社ト駐日「ソ」聯邦通商代表部間ニ大體左記要領ノ條件ニテ賣買契約ヲ締結シタリ

(一) 數量　四萬佛噸

(二) 原油受渡期間

十月二日以降同月末迄　一三、三四〇噸

十一月一日以降同月末迄　一三、三三〇噸

十二月一日以降同月末迄　一三、三三〇噸

(三) 引渡遲延料

所定期日迄ニ所定數量ノ原油ヲ引渡ササルトキハ「ソ」側ヨリ一日一佛噸ニ付金壹錢ノ遲延料ヲ支拂フ

(四) 「ソ」側ノ義務及會社側ノ優先權

「ソ」側ハ所定原油全量ノ引渡ヲ了スル迄ハ他ニ之ヲ販賣セス又「ソ」側ニ於テ販賣シ得ル餘剩アル場合會社ハ他ニ優先シテ之ヲ買取ル權利

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1086
http://www.jacar.go.jp

(五) 前渡金

ヲ有ス

會社ハ本契約締結ト同時ニ原油四萬佛噸ニ對スル購入代金ヲ前渡金トシテ支拂フ（從來ハ前渡金ニ對シ「ソ」側ヨリ利子ヲ支拂ヒタルモ本年ハ無利子トナレリ）

(六) 價格

秘密

(七) 違約金

「ソ」側カ所定期日ヨリ一ケ月ヲ經過シテ尚所定數量ノ原油ヲ引渡ササルトキハ其不足數量ニ該當スル前渡金及該前渡金ノ百分ノ拾ニ相當スル違約金ヲ原油ヲ以テ支拂フ

(八) 免稅

會社ハ本契約ノ締結及履行ニ關シ「ソ」聯邦ノ關稅、地方稅及凡ユル公課ヲ免除セラレ關稅其他一切ノ手數料ヲ支拂ハスシテ購入原油ヲ輸出スルコトヲ得

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1687

(九)準據法律

本契約ノ成立及其效力ニ關シテハ日本帝國ノ法律ニ據ル

會社ハ十二月十六日現在ニ於テ本契約ニ依ル購入原油中約三萬三千噸ノ受渡シヲ了セリ

尙昭和四年以降ノ年別購入量ハ左ノ如シ

昭和四年	二七、七一三。三佛噸
昭和五年	三七、二九九。九佛噸
昭和六年	一一二、五四三。四佛噸
昭和七年	一三四、九八二。六佛噸
昭和八年	一二四、七〇九。九佛噸
昭和九年	一二三、一八二。五佛噸（追加購入量二萬噸ヲ含ム）
昭和十年	四、〇〇〇。〇佛噸（契約量）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1088

第三款　對「ソ」諸懸案交渉經過概要

第一項　試掘期限延長問題（極秘）

日「ソ」基本條約附屬議定書（乙）ニ基キ北樺太石油會社ハ其利權契約ニ依リ大正十四年十二月十四日ヨリ十一ヶ年（昭和十一年十二月十四日迄）ノ期間北樺太東海岸一千平方露里ノ地域ニ亘ル石油試掘權ヲ獲得シ同地域ニ付テハ莫斯科ニ於テ會社代表ト「ソ」側當局ト折衝ノ結果昭和二年二月追加協定ヲ以テ北「オハ」「エハビ」「クキヅラニー」「ポロマイ」南北「パターシン」「チエメルニダー」「カタングリー」「ムキンゲ、コンギ」「ナンピ」「ウエングギ」「オフジ」ノ十一ヶ所ニ決定ヲ見タリ

爾來會社ハ採掘區域ニ於ケル採油事業ト並行シテ右試掘地域ニ於ケル試掘作業ニ力ヲ注キ來レルカ何分試掘地域ハ人跡稀ナル森林地帶ニシテ櫓建立迄ニハ海岸設備、通信、運輸、宿舍等ノ根本的諸設備ヨリ着手スルノ要アリ加之「ソ」側官憲ノ態度頗ル非融和的ニシテ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1680

常ニ煩瑣ナル手續、不當ナル要求命令、各種法規ノ嚴正苛酷ナル適用ヲ行フ等ノ爲試掘事業ハ徒ラニ莫大ノ資本ヲ要スルノミニテ遲々トシテ進マス依テ昭和四年中里社長赴莫ノ際試掘期限延長問題ヲ提起シタル處「ソ」側ハ同意的態度ヲ示シタル由ナルカ一方會社ハ事業資金ノ調達ニ困難ヲ感シ試掘ニ付テハ商工省ヨリ多額ノ助成金交付セラレ居ルニ拘ラス財政的ニモ十ケ年ノ期限ヲ以テシテハ一千平方露里ノ地域全般ニ亘ル試掘不可能ナルコト明カトナレルヲ以テ試掘期限延長問題ニ付正式ニ「ソ」側ト交渉ヲ開始セントスルノ議起リタリ

然ルニ右ハ日「ソ」議定書ノ改訂問題ヲ含ミ且何レ外務省カ交渉ヲ援助スルコトトナルヘキニ付豫メ外務、商工、海軍ノ三省協議セル結果試掘期限延長ノ必要ヲ認メ且延長ノ期間ハ五ケ年ヲ適當トスルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

依テ昭和八年十一月會社ハ其莫斯科駐在員ヲシテ「ソ」聯邦利權本

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1666
http://www.jacar.go.jp

部ニ對シ本件ヲ提起セシメタル處昭和九年五月ニ至リ利權本部ヨリ「試掘期限未タ三年ヲ剩ス今日本問題ヲ審議スルハ尙早ナリト思惟スルモ會社ニ於テ具体的試掘計畫ヲ有スルナラハ之ヲ提示アリタシ」トノ要求アリタルヲ以テ會社ハ昭和九年五月二十一日四十坑井掘鑿ノ試掘計畫ヲ通知シ置キ更ニ同年九月其莫斯科駐在員ヲ通シ他ノ諸懸案解決要望ト一括シテ試掘期限五ケ年延長問題ヲ利權本部ニ提出シタルカ昭和十年一月ニ至リ利權本部ヨリ「本問題ノ審議ハ未タ時期尙早ナリト認ム」云々ノ回答アリ斯ル回答ハ會社ノ全然不滿足ト爲ス所ナレハ重ネテ交渉繼續方並ニ不取敢十年度着手（十二年度完成）ノ試掘作業ノ完成ヲ「ソ」側ヲシテ確認セシムル樣交渉方在莫斯科駐在員宛訓電セリ

此間ニ在リテ外務省ハ在「ソ」帝國大使ヲ通シ「ソ」側ニ對シテ隨時會社ノ期限延長要望ヲ支持シ來レルカ昭和十年一月「ソ」側ヨリ前記否定的回答ヲ得ルニ及ヒ同月在「ソ」酒匂代理大使宛㈠會社ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1691
http://www.jacar.go.jp

期限延長要求ヲ支持シテ「ソ」側ト交渉スルコト(二)右ト平行的ニ不取敢十年度着手ノ試掘作業ハ完了ニ至ル迄作業ヲ繼續スルコトヲ認メシムルコトノ二點ニ付訓令シ「ソ」聯邦外務部ト交渉ヲ行ハシメタル處外務部ハ本件ニ付テハ利權本部其他關係各方面ハ審議尚早トノ意見ナレハ此上ハ人民委員會議ニ諮ル外ナシトテ其手續ヲ採リタル趣ナリシカ同年四月ニ至リ利權本部ハ會社ノ試掘期限延長要求ニ對スル回答トシテ「試掘期限内ニ着手（開坑ヲ以テ着手ト見做ス）セル試掘井ハ期限後ト雖モ其完了ニ至ル迄作業繼續ヲ許可ス但シ二ケ年ヲ超ヘサルコト、期限延長問題ハ會社カ再ヒ提起セラルルニ於テハ再審議ノ用意アリ」トノ趣旨ヲ通知シ來レリ

右「ソ」側ノ回答ハ我方要望ト著シキ懸隔アルモ「ソ」側カ期限内ニ着手セル試掘井ニ關シテハ其完成ニ至ル迄作業ヲ繼續スルコトヲ認メタルヲ以テ此「ライン」ニテ我方要求ノ實質的貫徹ヲ計ルコト得策ナルヘシトノ外務省側意見ニ從ヒ會社ニ於テハ試掘計畫ノ一部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1693

ヲ繰上ケ試掘區一號井ハ全部昭和十一年十二月十四日（試掘期限滿了ノ日）迄ニ着手シ二號井ハ昭和十二年乃至十四年ニ着手スルノ案ヲ作成シ外務、商工、海軍當局ノ認許ヲ經タル上五月下旬在莫駐在員宛右案ヲ「ソ」側ニ提示ノ上「昭和十一年十二月十四日迄ニ着手（櫓建ヲ以テ着手ト見做ス）セル一號井及其後着手セラルヘキ二號井ハ其完了ニ至ル迄作業ヲ繼續シ得ルコト」ヲ新ニ「ソ」側ニ要求方訓電スル處アリタリ

即チ右新要求ハ試掘期限內ニ試掘ニ着手シタル試掘區域ニ付テハ其試掘事業完成迄作業ヲ繼續セシメヨ（一號井及二號井ハ連續セル作業ト見做ス）（會社ノ計畫ニ依レハ昭和十六年度迄即チ期限滿了後五ケ年間ノ繼續作業ヲ必要トス）ト云フニアリテ形式的ニハ期限延長ノ要求ヲ固執セサルコトトナリタルカ實質的ニハ試掘期限五ケ年延長ト同一ノ結果トナルモノナリ

外務省ハ前記會社側訓電ト同時ニ在「ソ」帝國大使宛會社代表ト連

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1693

絡ヲトリ會社ノ新要求ヲ「ソ」聯邦外務當局ニ提示シ其斡旋ヲ要望シタル上今後トモ右要求貫徹ニ努ム可キ旨訓令ヲ發シタリ

然ルニ七月初ニ至リ利權本部ヨリ會社代表ニ對シ「既ニ承認セル二ケ年ノ延長ニ依リ試掘計畫ノ遂行可能ナリト認ムルヲ以テ目下ノ處右以上ノ延長ニ關シ審議スルノ必要ヲ認メス」トノ趣旨ノ回答ヲ寄セ來レルヲ以テ會社代表ヨリ本件至急解決ノ必要ナル所以ヲ强調重ネテ申請スル一方同月二十九日大田大使ハ「ストモニヤコフ」ヲ往訪シ會社ノ要望達成方ニ付懇談ヲ重ネタル處先方ハ會社ノ作業カ米露等ニ於ケル同一事業ニ比シ甚シク緩漫ナリトテ二ケ年以上ノ延長困難ナル旨述ヘタルモ重ネテ我方主張ノ合理的ナル旨ヲ說明セル結果今一應關係官廳ト協議ス可キ旨ヲ約シ越ヘテ八月十七日廣田大臣ヨリモ在京「ソ」聯邦大使「ユレネフ」ニ對シ本件急速妥決ヲ見ル樣「ソ」政府ニ傳達方申入レタルニ「ユ」ハ之ヲ承諾セリ

次テ九月中旬利權本部ヨリ「會社カ各試掘井ニ付定メ居ル作業期間

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1684
http://www.jacar.go.jp

ハ過大ニシテ十分短縮シ得ルモノト認ムルニ付場合ニ依リテハ一九三八年十二月十四日迄ニ完了スルコトヲ條件トシテ一九三七年中ニ試掘作業ニ着手スルコトヲ許可スルノ用意アル」旨通知シ來リタルモ我方トシテハ杭打完了ヲ以テ着手ト見做スノ建前ヲ採リ居ル爲假令着手期限カ一ヶ年延長セラルルトモ開坑ヲ以テ着手ト見做サルルニ於テハ何等ノ實益無キコトトナルヲ以テ右「ソ」側ノ申出ニハ應セサル方針ヲ採リ、引續キ前顯五月下旬訓電ノ趣意貫徹ノ爲折角交渉ヲ重ネツツアリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1685
http://www.jacar.go.jp

第二項　其他ノ諸懸案

試掘期限延長問題ト共ニ昭和九年九月「ソ」側ニ一括提出セル諸懸案即留問題、物資輸入問題、（現況ニ付テハ第八款參照）日本人使用比率問題、面積不足ノ試掘區設定問題、會社船舶ニ依ル輸送ノ問題等ニ關シテハ其後交渉ノ全力カ試掘期限問題ニ向ケラレ居ル爲未タ捗々シキ結果ヲ見ルニ至ラサル處

留問題ニ付テハ「ソ」聯邦政府ニ於テ昭和十年十一月留貨ノ新換算率ヲ發表（「ソ」聯邦國内事情財政ノ項參照）セル爲之カ利權事業ニ及ホス影響ニ付目下攻究中ナリ

面積不足ノ試掘區域設定ノ問題ニ關シテハ「ソ」側ノ態度頗ル強硬ナルカ會社代表ハ昭和十年七月中旬ニ至リ從來ノ四區域ニ關スル要求ヲ改メテ五ハビ第五區及ヴォンダ第二區ノ二區ノミニ關スル要求ヲ繼續シ居レリ

次ニ十一地方ノ試掘區域中南方ノ「チエメルニダーギ」「チヤクレ、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1686
http://www.jacar.go.jp

ナムビ」「ウエングリ、大フジ」ノ三地方ハ地質調査ノ結果不良ナル爲從來會社ノ試掘計畫中ニ入リ居ラス會社トシテハ寧ロ右三地方ノ試掘權ヲ拋棄スルコトニ依リ面積狹少區域ニ關スル交渉ヲ有利ニ展開セシメントスルノ考ヲサヘ有シタルコトアリシガ昭和十年十月ニ至リ左近新社長ヨリ外務商工海軍三大臣宛「右三地方ヲ試掘第二期計畫トシテ試掘期限延長ノ上其試掘ニ着手スルコトト致度御詮議ヲ請フ」旨ノ請願書ノ提出アリタルヲ以テ目下本問題ニ關シ三省間ニ協議中ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1687
http://www.jacar.go.jp

第四款　北樺太石油積取帝國特務艦關係問題

第一項　現在迄ノ經緯概要

本件經緯ニ付テハ昭和八年度及九年度議會調書ニ詳述シ置キタルヲ以テ重複ヲ避クル爲茲ニハ其概況ノミヲ記述スヘシ

「ソ」聯邦政府ハ原油積取ノ爲北樺太「オハ」ニ渡航スル帝國特務艦ニ對シ最初ヨリ其軍艦トシテノ特權ヲ制限セントシ而モ斯ル態度ハ逐年露骨トナリ遂ニ昭和七年ニハ帝國特務艦ニ對シ商船同樣ノ取扱ヲ爲サントセリ依テ帝國政府ハ軍艦ノ特權ヲ主張シ之ニ反對シタル結果「ソ」政府ハ折レテ出テタルモ同年末更ニ「外國軍艦ノ北樺太港灣碇泊ニ關スル臨時特別規則（九月二十九日附）」ヲ送付シ來リ帝國特務艦「オハ」入港ニ當リテハ同規則ヲ遵守スヘキ旨通告シ來レリ

然ルニ右臨時規則中ニハ從來問題トナリタル乘組員名簿ノ提出、上陸員ノ制限（三十名以內）陸上行動區域ノ限定ノミナラス平服着用

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1698
http://www.jacar.go.jp

者ノ姓名等秘通告、要塞地外ノ撮影及「スケッチ」等ノ禁止等國際慣例ヲ無視セル各種ノ煩項ナル規定多カリシヲ以テ我政府ハ昭和八年五月在「ソ」大田大使ヲ通シテ「ソ」政府ニ對シ斯ル國際慣例ニ背反スル制限乃至禁止事項ノ撤廢方嚴重申入レタリ

右我方申入レニ對スル同年七月二十二日附「ソ」聯邦外務部ノ回答ハ我方要求ノ全部ニ對シ答ヘ居ラサルノミナラス一、二ノ條項ヲ除キ概ネ我方ノ滿足シ得サル所ナリシヲ以テ帝國政府ハ八月十日重テ在「ソ」大田大使ヲシテ「ソ」側回答ヲ反駁シ我方從來ノ要求貫徹方「ソ」政府ニ申入レシメタリ

右ニ對シ「ソ」側亦從來ノ主張ヲ固執シテ譲ラス結局主義的ニハ未解決ノ儘今日ニ及ヒ居レル有様ナルカ「オハ」現場ニ於テハ昭和八年航海期中殊ニ其後半ニ於ケル「ソ」地方官憲ノ我特務艦ニ對スル態度頗ル良好ニシテ常ニ問題トナリ居リタル上陸兵員ノ人數及行動區域ノ制限等ニ關シ一便法ヲ講シテ正式ニ之ヲ容認シタルヲ以テ現

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議41－1699

地ニ關スル限リ特務艦ノ要望ハ達成セラレ又昭和九年度ニ於テハ再ヒ上陸人員及行動區域制限問題繰返サレタルモ特務艦ハ之ヲ無視シテ自由行動ヲトリタル處「ソ」地方官憲亦別ニ何等ノ異議ヲ加フルコトナク宛モ默認ノ如キ態度ヲ持シ居リタル爲同年モ現地ニ於テハ別ニ何等ノ紛糾モ起ラサリキ

只同年七月駐日「ソ」聯邦大使館ヨリ我外務省ニ對シ「オハ」ニ於ケル特務艦ノ規則違反行爲ヲ口頭ヲ以テ抗議シ來リタルコトアルモ我方ニ於テハ從來ノ主張ニ依リ之ヲ反駁シ置キタリ

第二項　昭和十年中「ソ」側ノ我特務艦ニ對スル態度

本年春例年ノ如ク駐「ソ」帝國大使館ヨリ「ソ」政府宛本年度ニ於ケル帝國特務艦ノ原油積取豫定行動計畫ヲ通報シ之カ承認ヲ求メタル處「ソ」側ハ右特務艦ノ行動ニハ異議ナキモ例年ノ紛糾ヲ避クル爲現行「ソ」法規（前述ノ臨時特別規則）ノ遵守方各艦長ニ訓令ア

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

リタキ旨申越セリ

斯クテ本年航海期開始ト共ニ六月十八日最初ノ特務艦隱戸「オハ」ニ入港シタル處「ソ」地方官憲ハ例年ノ如ク一時ニ乘組員三十名以上ノ上陸ハ法規上地方官憲ノ權限外ナリトテ容易ニ之ヲ許可セサリシ爲同艦長ハ昨年ノ例ニ慣フヘシトテ石油會社港務課ヨリ上陸人員及行動先等ヲ「ソ」側ニ通告セシメタル上翌十九日二回ニ亘リ約七十名宛ヲ上陸セシメ「オハ」石油鑛場ノ見學ヲ斷行セリ然レトモ「ソ」現地官憲ハ昨年通リ別ニ之カ妨害乃至抗議等ノコトモナク同特務艦ハ二十日無事出港セリ

尙本件ニ關シ海岸駐在ノ「ソ」官憲ノ希望モアリタルニ付亞港帝國總領事館「オハ」分館主任ハ同地駐在ノ「ソ」外務部代表ヲ往訪シ本問題ノ圓滿解決ノ爲一昨年ト同樣ノ便法ヲ以テ三十名以上ノ上陸及「オハ」鑛場ヘノ旅行ヲ正式ニ容認スル樣懇談シタル處同代表ハ我特務艦ノ例年ノ常習的法規違反ヲ訴ヘタル後現地ニ於テハ中央ヨ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

リ指令ナキ限リ右許可ノ權限ナキ旨答ヘタルニ付分館主任ハ昭和八年七月二十二日附ノ「ソ」外務部發在「ソ」帝國大使館宛「ノート」ニ基キ現地守備隊長ハ當然右權限ヲ有スヘク同隊長カ好意ヲ以テ其權限ヲ行使セハ何等ノ紛糾ヲ見サルヘキ旨力説シタルモ同代表ハ現地「ソ」側ニ於テハ斯ル經緯ヲ全然承知シ居ラサルニ付中央ニ問合ハスヘキ旨答ヘタル趣ナリ

其後引續キ特務艦來航シ隱戸同樣ノ態度ヲ以テ自由行動ヲトリ居リ「ソ」側亦形式上規則通リノ制限ヲ固執シ來リタルモ別ニ何等ノ問題ヲ惹起セサリシカ八月七日特務艦襟裳入港ノ際ハ「ソ」官憲ノ態度一變シ從來ノ如ク上陸兵員ノ人數等ヲ制限セス只三十名以上上陸ノ場合ハ「オハ」ノ守備隊長宛報告ノ要アルニ付豫メ屆出テラレタキ旨申出テタルノミナリキ依テ後刻我石油會社港務課ヨリ今迄通リノ形式ニテ約七十名宛兩回ニ亘リ上陸「オハ」油田見學方通告シタル處同日夕刻守備隊長ヨリ右差支ナキ旨電話ニテ通告シ來リタル趣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ナリ

茲ニ於テ本問題ハ根本的解決ハ暫ク措キ現地ニ關スル限リニ於テハ都合ヨク解決セラレ其後特務艦ハ終航ニ至ル迄前述ノ手續ニ依リテ正式ニ其目的ヲ達成シ何等ノ問題モ起ラズ無事平穏ナリキ

尚此ノ間本件ニ關シ六月初旬駐日「ソ」大使館參事官我外務省ニ東郷歐亞局長ヲ來訪シ特務艦ノ「オハ」入港問題ニ付昭和九年度ノ如キ規則違反行爲ナキ樣豫メ手配方申出テ更ニ同月下旬同參事官ハ再度我外務省ニ西歐亞局第一課長ヲ來訪第一回「オハ」入港ノ特務艦ノ規則違反ニ關シ「ソ」聯邦外務部及同駐日大使ノ命ナリトテ嚴重抗議シ來リタルニ付西課長ハ日本政府從來ノ態度主張ヲ說明シ且昭和八年度ノ如キ地方的穏便解決方法ノ採用方慫慂シ置キタルコトアリタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

第五款　北樺太沿岸領海内ニ於ケル我船舶ノ無線電信使用問題

北樺太方面ニハ我石油、石炭兩利權企業ノ使用船舶其他木材積取船等多數ノ船舶年々航行シ居レルガ「ソ」官憲ハ「一九二八年七月二十四日附「ソ」聯邦領水内ニ於ケル外國船舶ノ無線使用規則」ニ基キ同方面ニ來航スル外國船舶ニ對シ入港ト同時ニ無線發受信器ニ封印ヲ施スコトト爲シ居ル爲何等ノ港灣設備ヲ有セス且天候激變シ易ク海洋險惡ナル同方面ニ來航スル外國船舶ハ莫大ナル業務上ノ不利不便ヲ忍ハサルヘカラス加之氣象通報又ハ警報ノ聽取不可能ナル事ハ同方面ニ於ケル頻々タル海難事件ノ原因トナリ居レル實情ナリ依テ石油、石炭利權企業及北海道船主大會議長ヨリセメテ受信器ノミニテモ使用許可スル樣「ソ」當局ニ對シ折衝方帝國政府ニ陳情スル所アリタリ

茲ニ於テ在「ソ」帝國大使館ニ於テハ外務省ヨリノ訓令ニ基キ昭和

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

七年當初ヨリ同九年ニ至ル二ケ年間ニ亘リ相互條件ノ下ニ極東方面「ソ」國港灣内ニ於ケル日本船舶ノ「ラヂオ」受信器使用許可方「ソ」聯邦外務部ニ對シ再三再四交渉ヲ試ミタルモ「ソ」側ハ終始一貫一九二八年七月二十四日附前記規則ヲ楯ニ取リ北樺太地方ニ於ケル特殊事情ヲ考慮スルヲ肯セサリシ爲遂ニ何等ノ妥結ヲ見スシテ今日ニ及ヒ居レリ（本件交渉ノ經緯ハ昭和十年度調書參照）

他方本問題未解決ノ爲多大ノ苦痛及損害ヲ蒙リツツアル我石油會社ニ於テハ現地「オハ」ニ於テ從來共屢々「ソ」地方官憲ニ對シ本問題ヲ提起シ何等カノ便法ヲ講スル樣請願ヲ試ミ來レルモ容易ニ埒明カサリシカ昭和九年春同社「オハ」鑛業所ヨリ當地新任稅關長ニ對シ改メテ本件ヲ提起セシ處意外ニモ現地官憲ニ於テ異議ナキ限リ同社船舶ノ無線使用ヲ許可スル旨言明アリタリ

依テ會社側ハ「カタングリー」及「チヤイオ」ノ現地「ソ」側官憲ニ交渉シタル處何レモ異議ナカリシヲ以テ茲ニ始メテ會社船舶ハ「ナ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1125 http://www.jacar.go.jp

ビリ」海岸（「カタングリー」支所附近）「チヤイオ」海岸（「チヤイオ」「バターシン」支所附近）ニ於テ無線使用ヲナシ得ルニ至リ既ニ前顯無線使用規則第三條（本條ニ依レハ軍艦ナラサル外國船舶ニシテ最寄ノ陸岸無線電信所ヨリ十哩以上ヲ離レタル港灣ニアルモノハ當該商港長官ノ特別許可ニ依リ「ラヂオ」使用權ヲ附與セラルルコトトナレリ）ニ基キ無線使用許可ヲ取付アリタル「ピリツン」海岸ト併セ「オハ」港ヲ除ク北樺太東海岸諸港ニ關スル限リ漸ク本問題ハ解決スルヲ得タル觀アリタリ

然ルニ昭和十年度ノ航海期開始前石油會社「オハ」鑛業所ヨリ「オハ」稅關長ニ對シ昨年度同樣「ナビリ」「チヤイオ」「ピリツン」ニ於ケル會社船舶ノ無線使用許可方願出ツルト共ニ海岸信號ニ依ル船舶及海岸間ノ連絡不充分ナルヲ理由トシテ「オハ」港ニ於テモ同樣之ヲ許可アリタキ旨申入レタル處同稅關長ハ右無線使用許可ハ昨年度限リノモノナリシヲ以テ更ニ中央（稅關本部）ノ指令ヲ仰クノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

要アルモ同指令ノ到達迄ハ昨年度ノ例ニ倣ヒ暫定的ニ「オハ」以外ノ前記港灣ニ於ケル無線使用ヲ許可スヘシト答ヘタルガ八月八日ニ至リ同税關ヨリ會社宛書面ヲ以テ「中央ヨリノ指令ニ基キ爾今北樺太沿岸港灣ニ於ケル外國船舶ノ無線使用ヲ一切禁止スル」旨通達シタルヲ以テ小川「オハ」鑛業所長ハ九月一日税關ヲ往訪シ本年度ノ航海期モ漸ク九、十月ノ天候險惡期ニ入ラントスル此際突然船舶ノ無線使用ヲ禁止セラルルハ會社側ニトリ苦痛特ニ甚シキ旨ヲ縷々説明シ再考方ヲ懇請セルモ同税關長ハ「自分トシテハ會社側ノ立場ニハ充分ノ同情ヲ有スルヲ以テ再三當地ノ特殊事情ヲ報告シ會社ノ希望達成方努力セルモ中央ヨリノ指令アル今日現地ニ於テハ如何トモナシ難キ次第ナレハ中央ニ於テ交渉セラレタシ」ト答ヘ之カ許可ヲ肯セサリシニ付會社側ハ已ムナク右經緯ヲ本社ニ報告シ本問題ハ再ヒ中央交渉ニ移牒セラルルニ至レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 197
http://www.jacar.go.jp

第六款　北樺太利權財産關係問題

第一項　石油利權企業財産ノ歸屬問題

本件ニ付テハ昭和九年度調書ニ於テ詳述セルヲ以テ之ヲ再錄セサルモ要ズルニ北樺太保障占領當時我方ニ於テ同油田試掘ノ爲投資設備シタル財産ハ其投資關係ヨリ見テ帝國政府（海軍省）及北辰會ノ出資設備セルモノ大部分ヲ占メ居ル處「ソ」聯邦側ハ北京交渉ニ於テモ將亦利權契約締結交渉ニ於テモ此種財産カ工業及鑛業企業ノ國有ニ關スル法令ニ依リ全部「ソ」聯邦ノ所有ニ歸セルモノナリトノ見解ヲ主張シ我方ノ所有權ヲ承認セサリシ爲右財産歸屬權問題ハ何等解決セラルルコトナクシテ利權契約ノ締結ヲ見タル次第ナリ

依テ大正十五年十二月以來本財産歸屬權問題解決ノ爲日「ソ」兩國政府間ニ種々交渉ヲ行ヒ懇談ヲ重ネタルモ結局何等ノ妥結ヲ見ルニ至ラス「ソ」側ハ本問題ハ利權契約規定ノ範圍内ノ問題ニシテ從テ利權者ト「ソ」當局トノ間ニ於テ交渉セラルヘキモノナリトノ主張

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ヲ固持シ我方トノ外交交渉ヲ回避シ今日ニ及ヒ居レリ

然シテ此間「ソ」地方官憲ニ依ル石油會社所屬建物ノ引渡要求乃至不法収用等ノ問題發生セルコトアルモ其都度我出先官憲等ノ抗議的交渉ニ依リ主義的ニハ解決セサリシモ我方要望通リ以前ノ狀態ニ復セシムルヲ得タリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

第二項　「オハ」第十五號鑛區內建物撤去問題

北樺太保障占領當時我守備隊ノ專用セル營舍（小屋ニ類スル小建物ヲモ含メ十一棟現在「ソ」側財產）及電信電話室（四棟會社側財產）ハ北樺太行政引渡後「ソ」側ニ於テ引繼使用シ來リタル處右ハ「オハ」我利權第十五號鑛區內ニ殘存シ居リ其附近ニ會社側ノ石油「タンク」數基存在シ居レル爲「ソ」聯邦技術安全規定ニ基ク「オハ」勞働監督署ヨリノ命令ニ從ヒ該建物ヲ撤去セシムル必要生シタリ依テ會社側ニ於テハ昭和七年十月「オハ」執行委員會（其後市「ソヴイエト」トナル）議長ニ對シ「ソ」側所有ニ係ル建物ノ撤去方竝ニ會社財產タル前記四棟ノ明渡方ヲ請願シ同時ニ前者ニ對シテハ應分ノ賠償ニ應スル用意アル旨申入レ其後該建物附近ニ於テ石油坑井掘鑿ノ要ニ迫ラレタルヲ以テ昭和八年三月再度陳情ヲ爲シタリ然ルニ「ソ」側ニ於テハ前記「ソ」側建物ハ勿論會社側建物ニ付テモ之ヲ其所有權歸屬問題ニ關聯セシメテ容易ニ撤去ヲ肯セス其撤去

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ニ關スル賠償問題ニ付キテモ十七、八萬留ト云フカ如キ法外ナル評價ヲナシ來リテ容易ニ解決ノ見込付カサリシカ其後會社側ニ於テハ事業計畫實現ノ爲該地域ニ於テ速ニ坑井掘鑿ノ要アリタルニ鑑ミ不取敢其附近ノ會社建物ノ急速明渡方「ソ」當局ニ要求スルト共ニ坑井櫓ノ築造ヲ開始スルヤ昭和八年九月ニ至リ漸ク「ソ」側モ該建物ノ居住者ヲ大部分立退カシムルニ至リタリ

茲ニ於テ會社側ハ坑井櫓竣工ニ伴ヒ先ツ其近クニ存スル會社側建物ノ取壞シヲ行ハントスルヤ「ソ」側ハ再ヒ財產歸屬問題ヲ持出シ該建物ノ賠償問題決定後ニ非サレハ絕對之カ取壞シヲ許サストテ會社側ノ主張ヲ頑强ニ拒否セシカハ昭和九年ニ至リ會社ハ已ムナク該建物ノ取壞シヲ見合セ「ソ」側ノ諒解ヲ得テ一先ツ坑井近クノ一棟ヲ法定距離外ノ地點ニ其儘移轉セシムルコトトセリ

其後本賠償問題竝ニ財產歸屬問題ハ昭和九年中或ハ現地「オハ」ニ於テ或ハ莫斯科ニ於テ或ハ東京本社ニ於テ夫々「ソ」側ト種々懇談

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ヲ重ネ折衝セルモ遂ニ解決ヲ見ス昭和十年ニ持越サルルニ至レリ（此間ノ詳細ナル交渉經緯ニ付テハ昭和九年度調書參照）

斯クテ昭和十年ニ至リ會社側ニ於テハ從來ノ賠償方針ヲ變更シ該建物ノ体積ヲ測定シ之カ材料タル切込材ヲ以テ賠償セントシタルモ日「ソ」兩者間ノ測定体積量ニ莫大（一千立方米）ノ差異アリテ是亦容易ニ解決セス今春再ヒ之ヲ莫斯科ニ於ケル中央交渉ニ移サントセルニ利權本部ニ於テハ本件ノ中央審議ヲ應諾セス「オハ」市當局ニ對シ至急本件解決方訓令セルヲ以テ本件ハ亦々現地ニ逆戻リシ五月頃ヨリ「オハ」市「ソヴイエト」側ト交渉開始セラレタリ

然ル所今回ハ「ソ」側モ從來ノ主張ヲ變更シ出來得レハ釘、硝子、塗料等各種ノ建築材料ヲ以テ賠償ヲ受ケタキ旨希望シ來リタルヲ以テ會社側ハ五千留乃至一萬留ノ範圍内ナラハ之ニ應スルモ可ナル旨應酬セル處「ソ」側モ之ニ同意シタルヲ以テ本件交渉ハ急速ニ進展シ五月二十七日遂ニ大体左記條件ニテ妥結ヲ見ルニ至リ爲念文書ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 1 12
http://www.jacar.go.jp

交換ヲナシテ相互ニ之ヲ確認セリ

一、會社側所屬ノ四棟ハ其歸屬權問題未解決ナルニ鑑ミ同建物ニ付テハ中央ニ於ケル本件解決迄保留ス

二、右以外ノ「ソ」側建物ハ全部之ヲ會社ノ所有ニ移ス

三、會社ハ之カ代償トシテ七千五百留ニ相當スル建築材料ヲ市「ソヴィエト」ニ提供ス

四、市「ソヴィエト」ハ八月十五日迄ニ該建物ヨリ居住者ヲ全部退去セシム

其後市「ソヴィエト」ヨリ之等建築材料輸入ニ莫大ノ關稅ヲ要スルコト判明シタル趣ヲ以テ賠償金七千五百留ノ中一千留ノミハ白「ペンキ」ニテ殘額六千五百留ハ現金ニテ支拂ハレタリ又該家屋ニ居住中ナル二家族ノ退去ハ十月末迄猶豫アリタキ旨依賴越セルニ付會社ニ於テモ之ヲ承諾シ白「ペンキ」ハ終航船ニテ日本ヨリ輸入スルコトニ決定セリ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 1 12
http://www.jacar.go.jp

尙會社側ハ此機會ヲ利用シ市「ソヴィエト」ニ對シ會社所屬ノ四棟ハ現在ノ所殆ト半壞狀態ニ在リ到底使用ニ堪ヘス經濟的價値殆ト無キモノナレハ其歸屬何レノ側ニ決スルモ別ニ實益ナキ次第ヲ述ヘ之カ會社側ノ自由處分ニ附セラレタキ旨懇談セシ處「ソ」側モ之ヲ快諾シ九月二十六日文書ヲ以テ之ヲ認メ本件ニ付テハ今後一切干涉セサル旨通達シ來リタリ

茲ニ於テ四年越ニ紛糾ヲ見タル本問題モ遂ニ解決スルニ至リタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1－1－14
http://www.jacar.go.jp

第七款　「ソ」鐵道局ノ我利權鑛區內土地收用問題

「オハ」ー「モスカリウオ」間國有鐵道ハ「オハ」「ソ」側石油「トラスト」第十七號鑛區ヲ基點トシ我利權鑛區內（第十六、第二十一、第二十六號鑛區）ヲ通過シテ西海岸「モスカリウオ」港ニ向ヒ居レル處右鐵道ノ我利權鑛區內通過ニ關シテハ其建設當時卽チ一九三二年二月二十六日ノ我石油會社及「ソ」側當該官憲間ノ協定ニ依リ該鐵道ノ收用地帶ヲ十六米乃至三十米ノ範圍（線路中央ヨリ兩側ニ夫々八米乃至十五米）ト決定セラレタリ

然ルニ「オハ」「ソ」鐵道局ハ昭和八年秋ヨリ翌九年始ニ亘リ該鐵道線路ニ平行シテ前述協定ニ依ル鐵道收用地帶外ナル我利權第二十一號鑛區內ニ多數ノ鐵道所屬家屋ヲ建設シタルヲ以テ我石油會社ハ「オハ」市「ソヴイエト」ニ對シ一九三二年ノ鐵道用土地收用ニ關スル協定並ニ「ソ」聯邦土地收用法ニ基キ數回ニ亘ツテ嚴重ナル抗議ヲナシ該建物ノ至急撤去方ヲ要求セルモ「ソ」側ハ昭和九年三月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

十九日書面ヲ以テ否定的回答ヲナセル外一切之ヲ不問ニ附スルノ態度ニ出テタリ（詳細ハ九年度調書參照）斯クテ昭和十年三月會社ハ已ムナク「ソ」側第一回來信ノ趣旨ニ基キ同鑛區ニ於ケル新坑井掘鑿計畫ヲ通知スルト共ニ該建物ノ至急撤去方懇談シタル處「ソ」側モ遂ニ我方要望ヲ應諾シ本年掘鑿ノ豫定ナル第九十七號坑井附近ニ存スル建物三棟ハ本年四月一日迄ニ其他ノ家屋ハ六月十五日迄ニ全部撤去スル旨言明シ且文書ヲ以テ確答シ來リ茲ニ本件ハ無事解決スルヲ得タリ

然ルニ本年七月末ニ至リ亦々「オハ」市「ソヴイエト」ハ會社第十六號鑛區鐵道敷用地帶内ニ鐵道從業員子弟ノ小學校建設ヲ開始セル處會社ニ於テハ八月下旬該建物ノ殆ト完成スルニ至ツテ初テ之ニ氣付キ直チニ市「ソヴイエト」議長ニ之カ撤去方要求シタルニ對シ同議長ハ該小學校ハ交通人民委員部所屬ノモノナルヲ以テ一九三二年二月ノ協定ニ基キ之ヲ鐵道敷用地帶内ニ建設スルハ不法ニ非サル旨

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1－116 http://www.jacar.go.jp

同答セリ

依テ會社側ハ右協定ニ依ル鐵道收用地ハ線路保護ノ爲ニ設定セラレタルモノナレハ鐵道番小舍等ノ如キ直接附屬建築物ハ例外トスルモ單ニ交通人民委員部所屬ヲ理由トシテ小學校又ハ從業員用宿舍等任意ノ建物ヲ建設スルハ收用地設定ノ目的ニ背反スルノミナラス若シ之ヲ許スニ於テハ收用地ハ事實上片側四十五米宛（收用地十五米、技術安全規定ニ依ル火防距離三十米）即チ九十米ノ幅員ヲ有スルト同一ノ結果ヲ惹起シ利權企業ノ事業遂行ヲ妨クルコト甚大ナルヲ以テ該協定ノ趣旨目的ニ鑑ミ斯ル解釋ハ絶對許容セラレサルコト明カナリ加之該小學校ハ約一米六〇鐵道收用地外ニ喰出シ居ルニ付何レノ點ヨリスルモ移轉ヲ要求スル權利ヲ有スルモノナリト反駁セシ處

同議長ハ詳細調査ノ上回答スヘシト答ヘタリ

其後同「ソヴイエト」議長ハ九月四日附書面ヲ以テ該建物ハ用地劃定ヲ誤リ收用地帶外ニ出テシモノナルニ付當然移轉ノ要求ニ應スヘ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

キ筈ナルモ同小學校ハ本年九月末ヨリ開校スヘク目下鋭意竣工ヲ急キツツアル際ナレハ來年六月ノ學期終了ニ至ル迄之カ移轉ヲ猶豫セラレタキ旨懇請シ來レリ

依テ會社側ハ其事業計畫ヲ考慮シタル上同「ソヴイエト」議長ノ懇請ヲ容レ該小學校ノ移轉延期ヲ承諾スルト共ニ同議長ノ書面ニ依レハ恰モ「ソ」側ハ鐵道收用地帶内ナラハ任意ノ建物ヲ建築シ得ルモノト解シ居レルカ如キヲ以テ本主義上ノ問題ニ付重テ嚴重注意ヲ喚起シ置キタルカ右ニ對シテハ「ソ」側ハ中央ニ請訓中ナリトテ其後何等ノ回答ヲナシ來ラスシテ今日ニ及ヒ居レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1118
http://www.jacar.go.jp

第八款　石油會社利權企業地向物資輸入ニ關スル各種問題

第一項　概說

石油會社ハ利權契約ニ基キ同社從業員ニ對シテ供給スルコトトナリ居ル日用品食糧等ノ物資ヲ駐日「ソ」聯邦通商代表ノ輸入許可ヲ取付ケタル上各利權企業地ニ輸入シ又之カ現地販賣價格ハ通商代表ノ輸入許可證附屬輸入品目錄表示ノ露貨建「サハリン」cif値段ニ一定率ノ諸掛ヲ加算シタル額ヲ以テ定メ「オハ」鑛山監督ノ認可ヲ得テ販賣シ居レル次第ナリ

然ルニ「ソ」側ハ從來再三再四各種ノ手段ヲ用ヒテ右輸入物資ノ數量ヲ削減セントシ或ハ右輸入物資販賣値段ニ圓對留ノ公定相場ヲ適用セント試ムル等ノ事アリシカ殊ニ昭和九年度ニ於テハ現地「ソ」官憲ハ輸入物資ノ數量及品種ニ對シ前例ナキ大削減ヲ加フルト共ニ賣値認定ハ其實價ニ準據スヘキモノナリトテ實際買入價格ヲ確認ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ヘキ仕切書ノ提示ヲ要求シ來リ延イテハ圓對留ノ換算率問題ニ迄波及セントスル惧アリタルカ結局莫斯科ニ於ケル會社代表及「ソ」利權本部間ノ折衝ノ結果同年限リノ解決案トシテ大体(一)輸入物資總量ハ會社從業員ニ支拂フヘキ賃銀ノ總額ヲ限度トスルコト(二)賣價認定ノ基礎タル仕切書提出ノ代リトシテ東京府公認市場物價表ヲ添附スルコト及(三)輸入目錄記載ノ物價ハ從來通リ留建ヲ以テ表示スルコトニ決定ヲ見タリ(本件經緯詳細ハ昭和九年度調書參照)然ルニ本昭和十年度當初本問題再燃シ會社側カ前年ノ例ニ倣ヒ約二百四十萬圓ノ物資輸入ヲ計畫セルニ對シ「オハ」鑛山監督官ハ約百五十萬圓内外ヲ以テ足レリトシ茲ニ莫大ノ差異ヲ生シ到底現地解決不可能ナリシカハ本件ヲ莫斯科交渉(會社代表及利權本部間)ニ移牒シ且東京ニ於テモ本社及「ソ」通商代表部間ニ於テ極力折衝シ且在「ソ」帝國大使館ノ斡旋ヲ得タル結果漸ク半歲ノ日子ヲ費シ終航船内地出帆間際即チ十月下旬ニ至リ大体會社側ノ希望通リノ解決ヲ見ルニ至レ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

地ニ於テハ解決ノ見込付カサリシカハ之ヲ莫斯科ニ於ケル會社代表及「ソ」利權本部間ノ交渉ニ移スト共ニ東京ノ會社本社ニ於テモ駐日通商代表トノ間ニ折衝ヲ開始スルコトトナリタリ

爾來東京及莫斯科ニ於テ極力之カ解決ニ努力シタルモ會社ニ於テ二百三十萬圓「ソ」側ニ於テ總額百七十萬圓迄相互ニ讓歩シタルノミニテ容易ニ解決スルニ至ラス會社ニ於テハ物資輸送期タル航海期ノ終了切迫竝ニ既ニ輸出物資ノ購入手配濟ミノ爲メ相當焦慮シ遂ニ社船「オハ」丸第六航（九月六日小樽出帆）ニ於テハ輸入許可ナキ物資ヲモ相當輸送シタルカ九月下旬ニ至リ「ソ」側ニ於テ二百十萬圓迄讓歩シタル爲漸ク事ナキヲ得タリ其ノ後モ十月六日出帆ノ浦潮丸ニテ約十四萬圓餘ノ輸入無許可品ヲ輸送スルト共ニ我政府ニ對シ事情ヲ具シテ本件交渉解決斡旋方願出アリタルヲ以テ在「ソ」帝國大使館ニ於テモ莫斯科交渉ヲ支援シ「ソ」側ニ斡旋シタル結果十月下旬漸ク會社要望額タル二百三十萬圓ノ輸入許可（但シ此ノ内二十萬

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

リ

同右ニ關聯シ現地「オハ」ニ於テハ輸入物資ノ通關手續問題、輸入品ノ内地逆送問題及販賣禁止問題等各種厄介ナル問題續出シ相當紛糾ヲ來セリ以下項ヲ分チテ詳細左ニ記述スヘシ

第二項　物資輸入量問題

右油會社「オハ」鑛業所ニ於テハ例年ノ如ク本年三月「オハ」鑛山監督官宛昭和十年度輸入物資目錄ヲ提出シ之カ審査確認ヲ求ムルト同時ニ本輸入計畫ハ昨年度ト略々同樣ニシテ大体同年ノ協定ニ從ヒ全勞働者一ケ年ノ勞銀總額（約二百四十萬圓）ニ相當スル旨ヲ説明シタル處同監督官ハ主義上物資輸入量ハ從來ノ販賣實績ニ鑑シ露人從業員一ケ年ノ賃銀總額及日本人勤勞員一ケ年賃銀總額ノ約二十三％ノ範圍内（計約百五十萬圓）ニ於テ之ヲ許可スヘキ旨ヲ主張シ會社提出ノ輸入品目錄所載ノ物資全般ニ亘リ大削減ヲ加ヘ來リタリ

依テ會社側ハ種々懇談ヲ重ネタルモ餘リニ兩者ノ差異甚シク到底現

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

國ハ發年度ニ於テ販賣シ且之カ品目等ハ「オハ」鎭山監督官ト協議スルコトヲ條件トス」ヲ得ルニ至リ十月二十四日小樽出帆ノ終航船ニテ無事必要物資ヲ輸送スルヲ得タル次第ナリ

茲ニ於テ本問題ハ本年度ニ關スル限リ一先ツ解決スルヲ得タリ

第三項　輸入物資ノ通關手續及輸入品內地逆送問題

從來「ソ」側税關ハ會社ノ企業地向輸入物資陸揚ノ際毎日通商代表ノ發給スル輸入許可證附屬輸入品目錄ニ據リ其數量等ヲ照合スルノミナリシカ本年九月六日突然會社「オハ」鎭業所宛書面ヲ以テ本年輸入セラレタル對采類中ニハ著シク腐敗セル不良品多カリシニ付今後輸入物資通關ノ際ハ左記通關手續ニ準據スヘキ旨通告シ來リタリ

(一)總テノ酒保品ハ會社代表者及「ソ」衞生監督官立合ノ下ニ石油勞働者組合代表者及税關吏ニ依リテ檢査セラルルモノトス

(二)食用ニ適當ナラサル不良物資ヲ發見セル場合ハ前記四者署名ノ下ニ調書ヲ作成ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

(三)食用ニ不適當ト認メラレタル食用品ハ現場ニ於テ廢棄セラルルモノトス

(四)不良ト認メラレタル物資(食料品ヲ除ク)ハ「オハ」稅關ノ許可ヲ得テ取近便ヲ以テ日本ニ逆送スベキモノトス

更ニ同月十九日附書面ヲ以テ同稅關長ヨリ右手續ニ依リ輸入物資ヲ檢査鑑定シタル結果「サージ」、「ポプリン」、「フランネル」及婦人冬外套等價格總計約九萬留ニ及フ商品ハ品質不良ト認メラルルニ付次回ノ便船ニテ日本ニ逆送スヘキ旨命令シ來リタリ

依テ當社側ハ同社ノ輸入物資ハ利權契約第二十一條ニ明記セラルル權利及手續ニ基キ既ニ「ソ」聯邦通商代表ノ輸入許可ヲ得テ特別ニ輸入セラレタルモノニシテ之ヲ稅關ニ於テ品質ノ檢査ヲ爲シ且逆送ヲ命スルカ如キハ「ソ」聯稅關法ニモ準據セサル不當行爲ナルコト並ニ組合側カ檢査ニ參與スルカ如キ絶對承服出來サル旨稅關及組合側ニ嚴重抗議セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1134
http://www.jacar.go.jp

斯クテ本問題ニ付曾社側及「ソ」側各方面間ニ數次論爭ヲ繰返シタルカ結局現地ニ於テハ解決ヲ見ルニ至ラス莫斯科交渉ニ移サレタル結果十月十四日中央ヨリ逆送命令撤去ノ指令發セラルルコトトナリ茲ニ一段落トナリ又通關手續問題モ遂ニ解決ヲ見サル内ニ航海期終了シ自然解消セラレタリ

尙税關ノ通關實情ハ一々各物資ニ付前記ノ方法ニテ檢査シ居ル譯ニアラス或特定ノ物資ニ付特ニ之ヲ行ヒ居リタル次第ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1135
http://www.jacar.go.jp

第四項　輸入物資販賣禁止問題

我石油會社露人勞働者ニ對スル物資供給ハ同社及石油勞働者組合中央委員會間ニ締結セラレタル團體契約ニ基キ實施セラレツツアル處「ソ」側ハ同契約ニ基ク供給「ノルマ」ヲ以テ販賣ノ最大限度ト看做シ居ルニ對シ會社側ハ該「ノルマ」ハ元來會社ノ負擔タルヘキモノナルヲ以テ其最少限度ヲ規定セルモノナルコト明カナリトノ見解ヲ有シ居レル爲兩者間ノ妥協ハ極メテ困難ニシテ從來ニ於テモ屢々各種紛糾ノ原因トナリタリ

昭和十年度ニ於テモ九月下旬會社酒保ニ於テ十月一日歸途ニ就クヘキ露人季節勞働者ニ對シ毛布、靴、靴下等冬期用品ノ販賣ヲ開始スルヤ九月二十六日突如稅關監視官ハ民警二名ヲ伴ヒテ酒保ニ來リ賣殘リ毛布三枚ニ封印ヲ施シテ其販賣ヲ禁止シ續イテ稅關ヨリ會社「オハ」鑛業所宛同日附書面ヲ以テ團體契約「ノルマ」外物資タル毛布、編上靴（團體契約附錄第一號第二條(D)項(ロ)ニ依リ長靴、短靴

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

ノ何レカ一方ハ「ノルマ」中ニ包含セラレ居ル處會社ハ双方ヲ同時ニ販賣セントセシナリ）ノ販賣ハ明カニ該團體契約違反ナルヲ以テ直チニ其販賣ヲ停止セサルニ於テハ之等商品ノ在庫品全部ヲ封印スルノ餘儀ナキニ至ルヘシト通告シ來レリ

依テ會社側ハ九月二十八日稅關ニ對シ利權契約第二十一條並ニ團體契約附錄第一一號第二條(B項（同項ニ依レハ會社ハ所定ノ「ノルマ」ノ外必要ノ程度ヲ考慮シテ供給物資ノ追加ヲナシ得ルコトトナリ居レリ）ニ基キ稅關側ノ主張ヲ反駁シ又永年何等支障ナク行ハレ來レル毛布ノ販賣ヲ禁止シ且會社管理部ニ通知スルコトナク酒保品ノ販賣ヲ禁止スルカ如キハ明カニ企業妨害行爲ト認ムルニ付直チニ封印ヲ解除セラレタク然ラサル場合ハ利權契約第六條ニ依リ損害賠償ヲ要求スルコトアルヘシト嚴重ナル抗議書ヲ提出セリ又在「オハ」分館主任モ會社側ノ依賴ニ依リ外交代表ヲ往訪シ本件至急解決方ニ關シ交渉セシカ同代表モ稅關側ト同樣團體契約附錄第一一號第三條第

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1137
http://www.jacar.go.jp

三項ニ基キ「ノルマ」外物資販賣ノ爲ニハ勞働者組合トノ間ニ追加協定ヲ要スル處會社側ハ該協定締結ノ提議サヘモナシ居ラサルニ付「ノルマ」外物資タル毛布其他ノ販賣ハ該契約違反行爲タルヲ免レストナシ强硬ナル態度ヲ持シテ讓ラサリシヲ以テ遂ニ何等ノ妥協ニモ到達スルヲ得サリキ

斯クテ本件ハ中央交渉ニ移牒セラレタル結果稅關本部ヨリ當地稅關ニ對シ封印解除ノ指令アリシ由ナルモ既ニ季節勞働者出發ノ後ナリシヲ以テ結局無意義トナリ且本件「ノルマ」外物資販賣ノ根本問題ハ未タ全然解決ノ曙光ヲ見スシテ今日ニ及ヘル次第ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1138 http://www.jacar.go.jp

第九款　利權企業露人勞働者家族ノ「オハ」來航問題

利權契約及現行團体契約ニ依レハ我石油會社ハ露人勞働者家族ニ宿舍ヲ提供スルノ義務ナク只一九三二年三月二十一日附會社及石油勞働者組合中央委員會間ノ協定ニ依リ常傭勞働者家族ニ對シテハ何等豫定ナキ自由ナル宿舍アル場合ニ限リ特ニ之ヲ提供スルコトニ同意セルノミナリ

而シテ露人勞働者傭入ニ當リテハ家族同伴不許可ヲ條件トナシ居レルニ拘ラス實際ハ年々多數ノ家族來航シツツアリシカ會社側モ輸入物資賣上高增加等ニモ關聯シ從來ハ單ナル形式的抗議ヲ繰返シタルノミニテ結局好意的取扱トシテ彼等ニ宿舍ヲ提供シ來レルヲ以テ「ソ」側ハ之ニ乘シ益々多數ノ勞働者家族ヲ送込ミ來リ本年度ノ如キ八月十日迄ニ渡來セル第一回雇入勞働者中ノ家族數ハ實ニ九十九組ノ多キニ上リシヲ以テ會社側モ遂ニ宿舍提供ニ應シ兼ネ石油勞働者

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

組合側ニ對シ協定違反ヲ抗議シ種々折衝ヲ重ネタル結果兎モ角組合側ノ懇請ヲ入レ一人平均四、五平方米ノ標準面積ニ拘泥スルコトナク又一室ニ二家族ヲ收容スルモ差支ヘナシトノ條件ニテ宿舍ヲ提供スルト共ニ今後ハ絶對之ヲ許容シ得サル旨警告ヲ發シ置キタル趣ナリ

斯クテ九月一日現在「オハ」鑛場ニ於ケル露人常傭勞働者總數九〇八名ノ中家族同伴者ハ六二一組ノ多數ニ上リ其割合ハ六八・四％ニ達スルカ如キ狀態ナルニモ拘ラス九月四日亦々當地鑛務署長「アバーゾフ」ハ會社宛電話ヲ以テ「重工業人民委員部ヨリ今秋二百組ノ勞働者家族ヲ歐露ヨリ送込ム旨ノ入電アリタルニ付之カ準備アリタキ旨通知越セリ依テ會社「オハ」鑛業所長ハ九月七日同署長及組合議長ヲ往訪シ會社側ハ斯ル多數ノ家族ニ對シ絶對宿舍ヲ提供シ得サルニ付其旨重工業人民委員部ニ打電シ右家族渡航阻止方要求セリ

右ニ對シ鑛務署長ハ十六號鑛區ノ舊舍及二十四號鑛區ノ季節「バラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 130 http://www.jacar.go.jp

ツク」ヲ修理セハ尚百家族位收容スルノ餘裕アルヘシト述ヘタルヲ以テ鑛業所長ハ豫想セサル家族ノ渡來ハ單ニ宿舍ノミナラス物資ノ輸入、電氣暖房其他會社ノ事業計畫ニ多大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ今後一切此ノ如キ團体契約竝ニ會社及石炭勞働會組合間協定ニ違反スル行爲ヲ應諾スル能ハストテ頑硬ニ反駁スルト共ニ同日「オハ」市「ソヴイエト」議長宛書面ヲ以テ事情ヲ具シ勞働者家族來航阻止方斡旋ヲ依賴シ置キ他方「オハ」分館主任モ會社側ノ依賴ニ應リ同地外務部代表ヲ往訪種々懇談ヲナシ家族渡航阻止斡旋方要望シタリ

其後右二百家族ノ中八十九家族ハ滿潮ニ於テ新雇入露人勞働者輸送用會社傭船ニ便乘方依賴シ來ルモ會社側ニ於テ之ヲ拒絶スルヤ其内五十組ハ十月三日勝手ニ北樺太西岸「モスカリウオ」港ヲ經由シテ「オハ」ニ渡來シ會社管理部ノ許可ヲ得スシテ獨身宿舍ニ居ヲ定メ又其他ニモ個別的ニ來「オ」シテ會社獨身宿舍ニ入込ミツツアル家族モ相當多數ニ上ル有樣ナルニ鑑ミ十月十日會社ハ重ネテ市「ソヴ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

イエト」議長及外務代表宛書面ヲ以テ「ソ」側ノ注意ヲ喚起シ此種利權契約及　團体契約違反行爲阻止方ニ付適當ナル對策ヲ講シ其結果回報アリタキ旨申入レタルモ未タニ何等ノ回答ニ接セスシテ今日ニ及ヘリ

又一方會社側ハ「オハ」民警署長ニ對シ會社管理部ノ承諾ヲ經スシテ無斷會社家屋ニ居住スル者ヲ嚴重取締リ彼等ノ居住登錄（「ソ」國ニ於テハ各家屋ノ居住者ヲ登錄シ無登錄者ハ不法居住者ト見做サル）ヲナササル樣手配ヲ請フト同時ニ一般勞働者ニ對シテモ以後管理部ノ許可ナクシテ家族ヲ居住セシメタルトキハ相當ノ處罰ヲナスヘク場合ニ依リテハ解雇處分ニ付スルコトアルヘキ旨告示セシカ是亦目下ノ處何等ノ效ヲ奏セサル狀態ナリ

之ヲ要スルニ同地ハ「ソ」國內ニ於テモ特ニ邊陬殺風景ノ土地柄ナレハ鮮人勞働者ナリトモ之カ家族同伴ヲ嚴禁スル時ハ會社ノ雇入ニ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 132
http://www.jacar.go.jp

慰スル者激減スヘク從テ「ソ」側トシテハ勞働者ノ供給不能ニ陷ル
コトヲ惧レ協定ニ違反スルモ家族同伴ヲ寛容シツツアルモノノ如シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 132
http://www.jacar.go.jp

第十款　會社從業員ノ失踪並ニ强盜被害事件

本昭和十年八月十五日北樺太「オハ」ニ於テ我石油會社從業員火夫瀧澤石松ナル者ノ被强盜殺傷事件發生シ在留邦人一同ノ不安未タ去ラサル中ニ同會社「トシイ」番人倉島定吉ノ失踪事件ヽ續イテ亞港ニ於ケル發動機船第三梅丸乘組員佐藤誠一ノ被射殺事件アリテ「ソ」領北樺太ニ在住スル邦人三千餘名ノ生活安全感ヲ脅カスコト大ナルモノアリタルヲ以テ在亞港帝國總領事及在「オハ」分館主任ヨリ夫々「ソ」當局ニ對シ嚴重抗議シ至急犯人ノ逮捕及將來ノ治安嚴重維持方要求スル所アリタリ右ノ中「オハ」分館管内ニ起レル二事件ノ經緯概要左ノ如シ

一、火夫瀧澤石松ノ被强盜殺傷事件

我石油會社雇傭勞働者ニシテ北「オハ」ニ在住セル火夫瀧澤石松ハ八月十五日夜「オハ」ニ在ル知人訪問ノ際「オハ」第四號鑛區附近ニ於テ十時頃突如顯レタル一露人ノ爲短銃ニ依ル射擊

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1134
http://www.jacar.go.jp

ヲ受ケ腕卷時計一個ヲ强奪セラレタリ本人ハ負傷セル儘北「オハ」ニ逃ケ歸リ更ニ友人二名ニ伴ハレ「オハ」日本病院ニ來リ診斷ヲ受ケタリ同人ノ負傷ハ背部盲貫銃傷ニシテ全治約三週間ヲ要シ幸ニシテ生命ニハ別條ナカリシモ近來此種事件ハ全ク跡ヲ斷チ居リシ際トテ在留邦人一同ニ相當大ナル衝動ヲ與ヘタリ「ソ」側モ大イニ此點ヲ憂慮セルモノノ如ク翌八月十六日早朝「オハ」外交代表ハ同地帝國總領事館分館主任代理ニ對シ本事件ノ概要ヲ通報スルト同時ニ遺憾ノ意ヲ表シ來レリ依テ同分館主任代理ハ事實調査ノ上十七日外交代表ヲ往訪シ此ノ如キ事件ノ頻發スルニ於テハ多數在留邦人ハ安ンシテ其業務ニ從事スルヲ得サルニ至ルヘキヲ以テ至急犯人並ニ平常時ニ於ケル火器携帶ノ取締ヲ嚴重ニセラレタキ旨申入レタル處同代表ハ宛モ季節勞働者ノ來往激シキ時期ナレハ搜査困難ナルモ當局ハ可及的速カニ犯人ヲ逮捕スヘク嚴重手配中ナリト答ヘタル趣ナリ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1135 http://www.jacar.go.jp

其後分館主任代理ハ外交代表ヲ往訪スル毎ニ本件捜査狀況ヲ質問シ犯人ノ逮捕ヲ督促シ尚外務大臣ヨリノ訓令アリタルニ鑑ミ九月二十日重ネテ同代表ニ對シ「オハ」ノ如キ小都邑ニ於テ斯クモ捜査遲延シ何等ノ效果ヲ擧ケ得サルハ「ソ」側警察機關ノ弛緩怠慢ニ依ルモノナラスヤト嚴重抗議シ捜査ノ經過ヲ問ヒ訊シタルカ同外交代表ハ徒ラニ辯解スルノミニテ要領ヲ得ス只翌二十一日ニ至リ檢事局ノ證人聽取書寫ヲ分館宛送付越シタル趣ナリ

一方被害者瀧澤石松ノ陳述モ相當曖昧ニシテ矛盾スルトコロアリ九月末「ソ」側民警署カ容疑者二名ヲ逮捕シタルヲ以テ當時既ニ全快就業中ナリシ瀧澤ヲシテ實地檢證セシムル爲出頭ヲ求メ來レルモノニモ拘ラス同人ハ頭ヲ知ラストテ其求メニ應セサリシ有樣ナリ

尚當地「ソ」司法警察機關ニ於テハ近ク移入セラルヘキ「レン

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 136
http://www.jacar.go.jp

トゲン」機械ノ設置ヲ待チ瀧澤体内ニ存スル銃丸ヲ檢ヘ犯人捜査ニ努力スヘキ旨言明シ居レリ

一、「トシイ」番人倉島定吉ノ失踪事件

我石油會社在「トシイ」番人倉島定吉ハ「ピリツン」支所（會社石油試掘作業地）ニ於テ物資ヲ入手シ之ヲ帆ヲ有スル小傳馬船ニ滿載九月十二日同地ヲ出帆歸途ニ就キタルカ九月二十一日「トシイ」ニアル同人妻ヨリノ問合セニ依リ始メテ倉島ノ歸着セサリシコト判明シタルヲ以テ「ピリツン」ヨリハ直チニ發動艇ヲ出シテ捜索ヲ開始スルト共ニ「ソ」民警署ニモ捜索願ヲ提出シテ捜査ヲ依頼セリ

會社側及民警署側共ニ爾來二十日間ニ亘リ「ピリツン」灣一帶ノ捜査ヲ行ヘルモ倉島及其使用セル傳馬舟ニ關シテハ全然判明スル處ナク只同人ノ積込ミタル麥粉四袋ノ中二袋ヲ「トシイ」對岸「イルリ」河口露人番人小舍ニ於テ發見シ水浸シトナリタ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1137 http://www.jacar.go.jp

ル他ノ二袋ヲ「ピリツン」灣岸ニ於テ發見セルニ過キサリキ
本事件ハ瀧澤事件ノ直後ニ發生セルト事件發生地「トシイ」附近カ
通信連絡ノ便ヲ缺ク地點等ノ理由ニ依リ種々ノ流言モ行ハレタルカ
在「オハ」分館ノ取調ニヨル失踪當日ヨリ一週間ニ亘レル暴風雨、
倉島妻ノ陳述其他ノ諸事情ヲ綜合スルニ他殺ノ疑ハ稀薄ニシテ大体
沈沒溺死ト見ルヲ妥當トスルモノノ如シ
「ソ」側ニ對シテハ他殺ノ嫌疑濃厚ナリトシテ嚴重捜査方依頼シア
ル處「オハ」民警署ニ於テハ五名ノ民警ヲ現地ニ派シ取調ニ當ラシ
メタルモ何等新事實ノ發見無ク結氷期ノ到來ト共ニ捜査ハ一應打切
リトナレリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 138 http://www.jacar.go.jp

第二節　北樺太鑛業株式會社ノ石炭利權

第一款　北樺太鑛業會社ノ事業現況

第一項　會社ノ組織、資本金及純益金

北樺太鑛業會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書乙ニ基ク利權契約及同利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ依リ北「サガレン」石炭企業組合ノ事業ヲ繼承シテ大正十五年八月二十一日設立セラレタル）モノニシテ其ノ公稱資本金ハ一千萬圓、拂込資本金ハ五百萬圓ナリ同會社ノ利權鑛區ハ北樺太西海岸ニ於ケル「ドウエ」、「マーチ」「ウラヂーミルスキー」ノ三炭田ニシテ其ノ內昭和九年迄ハ「ドウエ」ノミ稼行セラレタルカ昭和十年ヨリ「ウラヂーミルスキー」炭坑（後記）開掘ニ着手セリ

過去ニ於ケル同社ノ營業成績ハ振ハス辛シテ缺損ヲ免レ得タル實情ナリシカ昭和七年來相見直シ昭和八年三月締切ノ昭和七年度決算ニ於テ十五萬圓ノ純益金ヲ擧ケ創業以來始メテ株主配當（三分）ヲ行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 139 http://www.jacar.go.jp

ヒ引續キ昭和八年度決算ニ於テ三分昭和九年度決算ニ於テ四分ノ配當ヲ行ヒタリ

第二項　採炭量

曾社ハ昭和十年度事業計畫ニ於テ一七九、七七八屯ノ採炭ヲ豫想シ居ル處同年一月以降十一月末迄ノ實際採炭量ハ一六〇、七七八屯ナリ尚創業以來ノ採炭量左ノ如シ

大正十五年度	九〇四八・八四
昭和二年度	九五一四五・七〇
昭和三年度	一一〇五五〇・四五
昭和四年度	一二〇〇二六・一五
昭和五年度	一二〇八三三・〇〇
昭和六年度	一三〇六五〇・〇〇
昭和七年度	一二五五五・〇〇
昭和八年度	一四〇一六〇・〇〇
昭和九年度	一五三三二二・〇〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 1 1 4 2
http://www.jacar.go.jp

第三項　内地送炭量

昭和十年四月ヨリ十一月ニ至ル内地向送炭實量ハ二一六、〇六四・七一四屯ニシテ内會社炭一五九、九四四・七一四屯「ソ」側ヨリ買入レタル「マカリエフスキー」炭五六、一二〇屯ナリ

因ニ創業以來ノ内地向送炭量左ノ如シ

大正十五年度	九〇、四〇
昭和二年度	四〇、五六〇
昭和三年度	一〇、〇四二五
昭和四年度	一一、一五〇
昭和五年度	一二、〇〇〇
昭和六年度	一一、六四三〇
昭和七年度	一三、三五四〇
昭和八年度	一六、八五九八
昭和九年度	一九、七八一〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 144 http://www.jacar.go.jp

第四項　會社炭ノ販路

「ドウエ」産石炭ハ製鐵用、鑄物用トシテ他ニ比ヲ見サル良質ノモノニシテ主トシテ内地ノ主要製鐵所及骸炭製造所ヘ賣渡サル

第五項　勤務員及勞働者數

企業地ニ於ケル昭和十年八月一日現在ノ從業員數ハ勤務員一〇七勞働者一五二九計一、六三六ニシテ之カ國籍別ハ日本人勤務員八五勞働者四五〇、鮮人勞働者七、支那人勤務員四勞働者一二七、露人勤務員一八勞働者九四五名ナリ

而シテ冬季ニ入レル十一月一日現在ニテハ勤務員一〇六勞働者一五二二計一、六二八ニシテ日本人八五及四五二鮮人七支那人四及一二九露人一七及九三四ナリ

第二款　「ソ」聯炭購入ノ件

「マカリエフスキー」炭買入契約

昭和十年三月駐日通商代表部ト鑛業會社トノ間ニ「マカリエフス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 142 http://www.jacar.go.jp

キ」灰五萬五千瓲買入ニ付契約成立セルカ更ニ其後「ソ」側ノ增量申出ニ基キ五千瓲ヲ追加契約シタリ

尙右ノ中實際內地積來數量ハ五萬六千百二十瓲ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 1 43
http://www.jacar.go.jp

開坑工事完成ト送炭情況

第三款　「ウラヂミロフスキー」炭坑着業

北樺太鑛業會社ハ昭和九年度迄ハ其ノ有スル三利權地域中「ドウエ炭坑」ノミニ力ヲ注キ來リタルカ昭和十年度ヨリ「ウラヂミロフスキー」炭坑ノ採炭ヲ開始スルコトトナリ鑛業所ニ於テハ昭和九年中ヨリ同地ノ炭層調査其他準備ヲ進メ居タルカ昭和十年ニ入リテヨリ石炭積出棧橋築造（延長五七〇尺）狹軌運炭鐵道（延長一哩三）宿舍等ノ建設工事ニ着手シ八月完成セルヲ以テ差當リ坑道二ケ所ヲ穿チ採炭ヲ開始シ去ル九月四日土威來航中ノ汽船東豐丸ヲ同地ニ廻航シ三百十噸ヲ積込ミ第一回ノ内地送炭ヲ行ヘリ

九月一日現在ニ於ケル同地稼働人員ハ日本人四二、露人一二二、支那人九、合計一七三ニシテ運炭關係勞働者ハ目下ノ處石炭積込ノ都

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1144
http://www.jacar.go.jp

度「ドウエ」ヨリ派遣シ居レリ

現在ニ於ケル同炭坑ノ日産高ハ約五十噸昭和十年度總出炭豫定高ハ二千噸ニシテ昭和十一年度ハ更ニ新坑ヲ開掘シ約三萬噸ノ採炭ヲ行フ計畫ナル趣ナリ

尙本坑炭ハ「ドウエ」炭ニ比シ熱度低キモ灰分頗ル少ナキヲ以テ（約六％）特殊良炭タルヲ失ハス運輸機關用燃料其ノ他トシテ相當價キ販路ヲ有シ得ヘク前途好望ナル趣ナリ

第四款　邦人勞働者及從業員入露交渉經緯

(イ)休暇歸還者及交代從業員ノ入露

休暇歸還者ノ再入露ニ付テハ昭和九年度ト同樣（九年度調書參照）會社發給ノ證明書ニサガレン外交代表ノ裏書ヲ受ケ之ヲ東京駐在總領事館ニ提出シテ支障ナク査證ヲ受ケタリ又交代者ニ付テモ其都度

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 145
http://www.jacar.go.jp

照會スルノ煩ヲ避ケ三十名ノ範圍ニテ交代ノ了解ヲ遂ケ之亦支障ナク入露セシムルヲ得タリ

(ロ)邦人勞働者ノ入露

本年度ハ送炭高ノ增量竝ニウラジミル鑛區起業工事ノ爲昨九年度ヨリ六十三名ヲ增員シ三四五名ヲ申請スルコトトシ一月ヨリ現地當該官憲ヲ通シテ入露交渉ヲ開始シ二月末村山鑛業所長哈府ニ出張シ哈府極東執行委員會附屬利權企業勞働者募集委員會議長ト直接折衝シ三月上旬右全員ノ入露許可ヲ得ルヤウ內諾ヲ得タルカ右ニ不拘一ノ側ハ最初一九五名ヲ許可シタルノミニテ爾餘ノモノニ付テハ其後或ハ在籍勞働者ノ國籍別比率ヲ云爲シ或ハ宿舍不足、露人勞働者雇入遲延等ニ籍口シテ會社側再三ノ督促ニ應セス容易ニ殘員ノ入露ヲ肯ンセサリシカ其ノ間鑛業所トモ終始連絡ヲトリ又亞港、哈府、ヒス コー各帝國公館ニ於テモ夫々鮮側地方竝ニ中央官憲ト交渉斡旋ニ努

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1146 http://www.jacar.go.jp

メタル結果

三月十日　一九五名

五月八日　六六名

九月三十日　八四名

計　三四五名

ノ通最初申請ノ全員入露許可ヲ得タルカ最終分ハ時期ヲ失シタル爲募集不可能ニ陷リ四四名ハ未利用ノ儘終ルコトトナレリ

(ハ)邦人齒科醫入露拒絶

近年「ソ」國保健部ハ土威病院ニ齒科醫ヲ常置セシメス爲ニ邦人從業員ニシテ齒ノ治療ヲ要スルモノ續出シ（昭和十年始メ一二〇名）作業上ニモ支障ヲ來スニ至レル事實ニ鑑ミ同年夏期間邦人齒科醫ヲ渡樺セシメ右ノ治療ニ當ラシメントシ鑛業所ヲシテ現地官憲ニ交渉セシメタル處露人齒科醫ヲ派遣スルニ付邦人齒科醫ハ必要ナカルヘク是非必要トスル場合ハ中央ニ請訓ノ要アル旨回答越シタルニ付折

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 147
http://www.jacar.go.jp

返シ中央ニ請訓セシメタルモ六月十八日中央ヨリ保健部ヲシテ第一順位ニ邦人ノ治療ヲ保證セシムルニ付邦人齒科醫ハ入露ヲ許可セスト回答越セル由ニテ其後保健部ハ土戚ハ露人齒科醫ヲ派シ一週三回治療ニ當リ居ル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1148
http://www.jacar.go.jp

第五款　昭和十年度團体契約延期事情

本年度ハ組合中央委員會カノーヴォシビルスク市ニ移リタル第一年度ナル處改訂希望提案期日タル二月一日迄ニ組合側ヨリハ何等ノ通達ニ接セス從ツテ現行契約第七條ニ基キ當然向フ一ケ年延期セラルヘキ筈ナリシカ四月十五日ニ至リウガレン現地組合機關ヨリ鑛業所側ニ對シ組合中央委員會ヨリノ訓令ニ依ルトテ團契ハ第二十條ヲ除キ一九三五年中延期シ第二十條ノ改訂交渉ヲウガレン全權ニ委任スルニ付會社側ニ於テモ代表ヲ任命アリタキ旨申越シタリ右ニ對シ鑛業所側ハ團契第七條ヲ引照シテ例外ナク一九三五年四月一日迄延期セラルベキ旨ヲ回答申送ルト共ニ右ノ旨ヲ本社ニ移牒越シタルニ付本社ニ於テハ四月十七日電報ヲ以テノーヴォシビルスク市中央委員會ニ宛テ第二十條改訂交渉ニハ應シ得サルコト並ニ向フ一ケ年延期ヲ當然トスルニ付右承認アリタキ旨ヲ申送リタルニ之ニ對シ四月二

十一日中央委員會議長クワシタノ名ヲ以テ會社申出通リ延期承諾ノ旨電報回答越シ茲ニ本件ハ會社ノ希望通リ解決ヲ見タリ

第六款　報償炭金納經緯

利權契約第十四條ニヨリ會社カ「ソ」政府ニ支拂フヘキ報償ハ契約締結以來毎年例外ナク「ソ」側ノ懇請ニヨリ現物ヲ引渡サス金納シ來レル處本年五月突然ヤガレン鑛山署長ヨリ一九三四年四月ヨリ一九三五年三月ニ至ル報償八、八〇八屯八〇（同期間ニ於ケル總出炭一六〇、一六〇屯ノ五。五％）ヲ現物ニテ引取ルヘキ旨申出アリ然ルニ之ヨリ先會社ハ從來ノ協定ニ從ヒ右ノ報償炭モ當然會社ニ委託販賣セラルヘキコトヲ豫想シテ既ニ三月中社炭ト一括シテ賣約濟ノコトトテ通商代表部ニ對シ現物納入ニハ承服シ難キ旨ヲ述ヘ從來通リ金納方ヲ交渉シタルカ先方ハ只管中央ノ訓令ニヨルト稱シテ會社側主張ヲ容レス容易ニ埒明カス其ノ間現地ニ於テハ規定ノ豫告期間ヲモ考慮スルコトナク六月二十日ヤ｜ロフ號同二十七日更ニヤワ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1152
http://www.jacar.go.jp

スト回イ號ヲ廻船シテ報償炭ノ引渡ヲ要求スルニ至リシヲ以テ遂ニ在ウスコー帝國大使館ニ事情ヲ具陳シテ重工業人民委員部ニ對シ本件ノ圓滑ナル解決方ニ付斡旋方依頼スルト共ニ直接電報ヲ以テ同人民委員部ニ再三金納ニ變更方ヲ申請シタル結果先方モ會社側主張ヲ容レ現物納入圓持ノ最初ノ決定ヲ翻シ東京駐在通商代表部ト會社トノ間ニ合理的金納單價ヲ協定スヘシトイフコトトナリ茲ニ本件モ圓滿解決シタリ

第七款　社會保險料率引下交渉

元來會社ノ勞働者從業員ノ社會保險料ハ利權契約第二四條ノ規定ニ基キ同種國營企業ト同一率（賃銀ノ一〇％）ニシテ契約締結以來變改ナカリシ處昭和十年七月九日附中央執行委員會及人民委員會議決定ヲ以テ一般石炭企業ニ對シ社會保險料ヲ一％低減方發表シタルカ同時ニ右ノ低減ハ利權企業ニハ適用セサル旨ノ例外ヲ設ケタルニ付會社ハ右ノ如キハ前顯利權契約規定ノ違反ニシテ低減率ノ適用ヲ受

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1151
http://www.jacar.go.jp

ケサル場合ハ同契約第六條ニ照シ右ノ除外例ニヨリ蒙ルヘキ損害ヲ請求スヘキ旨ヲ述ヘ電報ヲ以テ重工業人民委員部外國課ニ抗議ヲ申送レル處折返シ同外國課ヨリ七月九日付中央執行委員會ノ決定ハパシ其他ノ切符制度廢止ニ伴フ賃銀値上カ社會保險納附金ノ總額ノ昂騰ヲ來サンコトヲ防止スル趣旨ニ出テタルモノニシテ利權企業ニ於テハ切符制度ニ關聯スル賃銀値上ノ事實ナク從テ社會保險料ノ低減ハ利權企業ニ適用セサルモノニシテ實質的ニハ利權契約ト矛盾セサル旨電報回答越シタリ

然ル處右ノ回答ハ會社トシテハ契約ノ文理的解釋上ヨリスルモ全幅的ニ承服シ兼ヌル點アル外、近年日本人從業員ニ對スル一時的勞働能力喪失ノ場合ニ於ケル扶助料減額其他社會保險保障ノ範圍制限等ノ事實ニ鑑ミ更ニ鑛業所トモ打合セノ上今後引續キ交渉ヲ繼續スル意向ナル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1152
http://www.jacar.go.jp

第八款　土威企業用木材料金値上問題

土威鉄業所ニ於ケル石炭採掘ニ必須ノ杭木及建築用其他ノ木材ハ現地ニ於テ薩哈嗹林業「トラスト」ヨリ拂下ヲ受居ル處其所要額ハ年々増加シ昭和八年度ニ於テハ約五萬石（内杭木四萬石）ニ達シ居レリ、然ルニ昭和九年七月林業「トラスト」ヨリ書面ヲ以テ一九三三年八月二十八日附極東執行委員會ノ決定ニ基キ薩哈嗹島ニ於ケル石炭並ニ石油地方ハ料率表一等級ヲ適用サルルコトトナリタルニ付木材拂下料ハ大五、四六留、中四、〇九留、小二、四五留ニ値上サレタル旨通告シ來リ次テ杭木ハ右決定中ノ「小」ト見做サルル旨通知越セリ右新料率ハ從來ノ料率即チ大三、五三留、中二、六五留、小一、五九留、杭木五三哥ニ比シ一、五倍ノ値上殊ニ杭木ニ付テハ五倍ノ値上ニシテ會社側ハ元來事業ノ基礎的要素タルト共ニ經營上ノ一大負擔タル木材ニ對シ斯ル急激ナル値上ヲ施スルハ企業經營ヲ益々困難ナラシムルモノニシテ利權契約第二十三條ノ精神ヨリスル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1152
http://www.jacar.go.jp

モ不當ナリト爲シ早速林業トラストト折衝シタル處値下ノ問題ハトラストノ權限外ニ付利權ノ監督官廳タル鎭山署ト交渉スル樣回答アリ依テ曾社ハ鎭山署ニ對シ新料率ハ値上リ餘リニ急ニシテ曾社ノ到底堪ヘ得サル處ナルニ付曾社ニ對シテハ特ニ例外ヲ認メテ從來ノ拂下料率ヲ適用セシコトヲ請願シタル處鎭山署ハ右願書ヲ重工業人民安員部ニ廻付シタル趣ニシテ一方鎭山署長ト交渉ノ結果中央ノ決定アル迄拂下料ハ新料率ニテ計算ノ上供託スルコトニ協定成立セリ

第九款　物資輸入問題

(イ)輸入物資總額ノ査定

昭和十年三月上旬鎭山署長ヨリ同年度物資輸入額査定ノ資料トシテ同年度輸入物資豫定數量金額並ニ支拂勞銀豫想額ヲ通知スヘキ旨申越アリ右ニ對シ輸入豫定額二百二十萬留、賃銀豫想額二百二十五萬留餘ト報告ノ上右輸入額認可申請シ置キタル處六月下旬東京駐在通商代表部ヨリ當該機關ヨリノ通知ニヨルト稱シ右申請額

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1154
http://www.jacar.go.jp

リ約三十萬留ヲ削減シテ百八十九萬七千餘留ニ限リ輸入許可スヘキ旨申越シタリ依テ會社ハ右削減ノ理由ヲ照會スルト共ニ輸入物資削減ノ結果カ或ハ團體契約ニ依ル義務的配給ノ圓滑ヲ阻害スルニ至ル虞ナシトセサル旨ヲ述ヘ申請額ノ許可方ニ付一再ナラス通商代表部ニ請願シタルモ容レラレス依テ更ニ八月初メ同部ヲ通シ中央ニ請願シタルカ同月十九日中央ヨリ充分ナル理由ヲ發見セストテ増額不許可ノ旨回答越セリ

然ル處一方現地ヨリ其ノ後ノ配給狀態ニ鑑ミ年度末豫想殘高モ増加ノ見込アリ資金關係ニ於テモ本年度物資輸入ハ鑛山著ノ最初ノ査定額ノ範圍ニ止メテ差支ナキ旨通知アリ依テ問題ハ事實上解消セルヲ以テ本件交渉モ右ニテ打切ルコトトシタル趣ナリ。

(ロ)輸入物資品目ノ自由選擇

昭和九年度ハ輸入許可額ノ範圍ヲ超ヘサル限リ輸入禁制品ヲ除キテハ會社カ任意品目ヲ選擇スルコトヲ得タル處昭和十年度通商代

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1155 http://www.jacar.go.jp

表部ハ鑛山署長ノ指定品目中ニ記載ナシトテネクタイ、靴人帽ノ如キ一部物品ノ輸入許可ヲ拒絶シタルニ付會社ハ利權契約第十七條並ニ昨年度ニ於ケル鑛山署トノ了解ニ基キ抗議ヲ提出シ決局鑛山署長ヨリ通商代表部ニ右拒絶物品ノ輸入認可方ヲ電報セシメ會社側主張ヲ貫徹スルコトヲ得タリ

(ハ)物價表提出、物資輸入認可ニ關聯シ通商代表部ハ昨年同樣鑛山署長ノ配給値段査定ノ基準資料トシテ必要ナリト稱シ種々物價表ノ提出方要求アリ

右ニ對シ會社ヨリ東京府市場協會發行日用品小賣値段、商工省統計課發行卸物價表拔萃及買入商店ノ提出シタル土威cif値段表（東京商工會議所ノ證明ヲ受ケタルモノ）ヲ提出シタルニ通商代表部ハ右ニテ滿足セス更ニ東京積出値段表ノ提出ヲ要求越セルカ會社ハ之ニ應セス問題未決ノ儘本年度物資輸入ヲ終了シタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1156 http://www.jacar.go.jp

第三節　坂井組合ノ石炭利權

第一款　坂井組合利權ノ現情

利權ノ管理委員

一、坂井組合ハ日露條約ニ基キ大正十四年末莫斯科ニ於テ締結セラレタル利權契約ニ依リ北樺太西海岸「アグネオ」炭坑ノ經營利權ヲ得タル處本邦ニ於ケル炭界ノ狀況、資金其ノ他ノ關係上久シク積極的事業ニ著手シ得サル狀況ニアリ依テ帝國商工省ノ希望モアリ本利權ノ維持伸張ヲ期スルノ趣旨ニ基キ昭和五年六月十六日坂井組合ハ北樺太鑛業會社トノ間ニ契約ヲ締結シ後者ニ對シ主トシテ炭層調査ニ付「アグネオ」利權ノ管理ヲ委任シタリ

炭坑調査ノ實行

二、北樺太鑛業會社ニ於テハ右委任ニ基キ昭和五年八月東北帝國大學杉山助教授及同大學學生ニ依囑シ約半ケ月ニ亘リ「アグネオ」炭坑ノ調査ヲ行ヘリ

「ソヴィエト」當局ノ「アグネオ」炭坑ニ至リ實地檢査ヲ行ヒタル上炭坑カ斯ク荒廢ニ委シ

三、昭和六年八月十八日北樺太鑛山署長ハ專門技師等ヲ帶同突然「ア

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

グネオ」炭坑視察

シアルハ誠ニ遺憾ナルニ付詳細莫斯科ニ報告スヘシトテ一ノ文書ヲ作成歸還セル趣ナリ

依テ北樺太鑛業會社側ニテハ坂井組合代表ヲシテ鑛山署長ニ對シ「坂井組合ニ於テハ決シテ本炭坑ヲ無視シ居ルニ非ス現ニ昭和五年ニモ調査ヲ遂ケタル程ニテ之ニ基キ今後ノ經營方法ニ付折角考量中ナルモ炭界ノ世界的不況ノ爲目下ノ儘ニテハ採算立タサルニ付新方法ニ依リ採炭ヲ再開シタキ意向ヲ有シ居ル」旨ヲ説明セシムルコトトセル一方日本側ニテモ本炭坑ヲ輕視シ居ラサルコトヲ「ソ」側ニ示サン爲ヲモ兼ネ北樺太鑛業會社「ドウェ」鑛業所長自ラ昭和六年九月十三日同炭坑ヲ視察調査スル所アリタル趣ナリ

其後昭和九年七月ニ至リ在亞港緒方總領事ヨリ坂井組合ニ於テ永ク利權企業ニ著手セサルトキハ「ソ」側當局ニ於テ何等カノ措置ニ出ツヘキ虞アリトシテ同組合ノ注意喚起方申越タルニ依リ組合代表者ノ來省ヲ求メテ現況ヲ訊シタル處出資ノ見込付キ事業ノ成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1158 http://www.jacar.go.jp

立ニ付折角奔走中ナリトノ事ナリシカ同年秋季ニ入リ富山縣方面ニ出資者ヲ得テ調査ニ著手ノ運ヒトナリ既ニ關係者渡樺ノ爲旅券下附出願提出濟ナリシ處十月ニ至リ有力ナル出資者タル八島庄太郎病死シタル爲計畫ニ一頓挫ヲ來シタルカ昭和十年ニ至リ北越製紙株式會社トノ間ニ出資並ニ產炭購入ニ關シ或ル程度ノ了解ヲ遂ケ共同調査ノ爲メ調査隊（一行六名）ヲ「アグネオ」ニ派遣セルカ十月下旬歸來セリ

第二款　「ソヴィエト」聯邦最高國民經濟會議對坂井組合訴訟事件

「ソ」側ヨリノ財產使用料請求訴訟提議

「ソヴィエト」政府側ハ北樺太保障占領中タルト否トヲ問ハス同地ニ在ル一切ノ鑛業企業財產ハ國有令ノ效力ニ依リ「ソヴィエト」聯邦ノ國有トナレルモノナリトノ主張ヨリ出發シテ現在坂井組合ノ利權地域內ニ存スル露人「クヅネツォーフ」施設ニ係ル一切ノ有體財產設備ハ「ソヴィエト」政府ノモノニシテ坂井組合ニ於テ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1152 http://www.jacar.go.jp

借用シ居ルモノニ外ナラスト爲シ從テ利權契約ノ規定スル所ニ依リ其ノ全價格ノ四「パーセント」ニ相當スル使用料ヲ毎年納入スヘキ義務アリト主張シ終ニ昭和三年六月利權契約當事者タル「ソヴィエト」聯邦最高經濟會議ヨリ坂井組合ヲ相手取リ利權契約ニ規定スル爭議解決方法ニ從ヒ「ソヴィエト」聯邦最高裁判所ニ右使用料五千三百六十七留六十八哥請求訴訟ヲ提起シタリ

坂井組合ノ抗議

之ニ對シ坂井組合側ハ北樺太石油、石炭事業關係財産ノ所有權問題ハ日露兩國政府間ノ交渉ニ依リ初メテ解決セラルヘキモノニシテ現ニ之カ交渉進行中ナルニ顧ミ同組合トシテ前記訴訟ニ應スヘキ限リニ非ストシ抗議シタリ

帝國政府ノ見解及措置

一方我政府ニ於テモ「ソヴィエト」政府ニ對シ本件使用料支拂ノ爲ニハ先以テ問題タル財産中如何ナルモノカ「ソヴィエト」聯邦ノ所有ナリヤ否ヤヲ決スルカ先決問題ニシテ此問題解決セラレテ始メテ利權契約ノ適用ヲ見得ヘキ處右問題ハ占領ノ法律的效力乃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

至北樺太引渡ノ效果ト關聯シテノミ決セラルヘキ處ナリ從テ右ハ性質上外交問題タルト共ニ兩國政府ハ右ニ關シ爭議繼續中ナリ

然ルニ最高經濟會議カ右兩國政府間爭議ノ對象タル財產ニ付一方的ニ所有權ヲ認定シ使用料ノ請求訴訟ヲ提起セルハ甚タ不當ニシテ日本政府ハ右訴訟ノ判決ニハ服スル能ハサル旨ヲ殿ニ抗議セルモ「ソヴィエト」政府側ハ利權契約ニ依レハ利權地域內ニ於ケル「ソヴィエト」政府ノ財產ニ對シ使用料ヲ支拂ハルヘク而シテ利權契約ノ解釋及實行上ノ紛議ハ「ソヴィエト」聯邦最高裁判所ニ於テ解決セラルヘキコトカ規定セラレ居レリ本訴訟ハ右使用料ノ請求ニ外ナラスシテ若シ坂井組合カ使用料支拂ノ對象タル財產所有權ニ付異議アラハ訴訟ニ於テ爭フヘキモノナリ要スルニ本件ハ利權契約ノ範圍內ノ事項ニシテ之ヲ外交問題ト認ムルヲ得ス日本側ハ本件カ現ニ兩國政府間交涉ノ對象トナリ居レリト主張スルモ「ソ」側ハ日本大使館トノ交涉ニ於テ嘗テ前記建前ヲ拋棄シタル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－116
http://www.jacar.go.jp

最高裁判所ノ判決及坂井組合貯炭ノ差押

コトナシトノ主張ヲ固持シテ譲ラス

四 斯ル間ニ最高裁判所ハ昭和五年一月三十一日坂井組合ニ對シ使用料ヲ支拂フヘキ旨ノ判決ヲ下シ次テ同年六月「アグネオ」山元ニ於ケル同組合ノ貯炭五千噸ヲ差押ヘタルニ付組合側ニ於テハ右差押手續其ノ他ノ點ニ關シ異議ヲ申立タルモ何等ノ效果ナク「ソヴィエト」當局ハ二回ニ亘リ右差押石炭ノ競賣ヲ行ヘリ但シ兩回共參加者ナク不成立ニ終レリ、右ニ對シテハ更ニ坂井組合ヨリ抗議ヲ爲シ在亞港帝國總領事亦同組合ヲ支持シテ「ソ」側ノ注意ヲ喚起セルモ結局問題解決セス一方「ソ」側ニ於テモ本件ニ付何等ノ措置ヲ講スルコトナクシテ今日ニ及ヘリ

第四節 塚原組合ノ石炭利權

利權地域ノ調査問題

大正十五年二月塚原組合ハ「ソヴィエト」政府トノ間ニ利權契約ヲ締結シ北樺太西海岸「コスチナ」ニ於ケル炭坑經營ノ利權ヲ獲得セルモノナル處同契約ニ依レハ塚原組合ハ昭和二年十一月一日迄ニ炭

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 http://www.jacar.go.jp

調査未著手ノ理由

調査期間延期ノ請願

在東京「ソヴィエト」通商代表部利權委員會ノ交渉

田ノ調査ヲ行ヒ昭和三年一月三十一日迄ニ調査地域中ノ一定部分ノ賦與方ヲ北樺太鑛山署長ニ申請スヘク若シ右期間内ニ申請ナキ場合ニハ利權契約ハ失效スルモノトセラレタリ

然ルニ本邦炭界ノ不況資金ノ關係等ノ爲塚原組合トシテハ契約所定ノ期日内ハ勿論今日猶調査ヲ終ヘテ事業ニ著手スルコト不可能ナル有様ニシテ同組合ハ昭和三年十一月十四日附ヲ以テ調査期間ノ延期ヲ「ソヴィエト」當局ニ出願シタル趣ナリ

然ルニ翌昭和四年ニ至リ在東京「ソヴィエト」通商代表部利權委員會代表ヨリ利權區域ノ調査竝事業著手時期ニ關シ照會越セルヲ以テ塚原組合ハ重ネテ同年十一月十四日前記事情ヲ具シ向フ一ケ年ノ延期ヲ請願シタル處同委員會ヨリ昭和五年一月一日附ヲ以テ利權契約ヲ破棄スヘシトノ通報ニ接スルニ至レリ依テ塚原組合ニ於テハ同委員會ニ對シ組合ノ立場ヲ說明シテ調査期間ノ延期方懇請シタル處莫斯科利權局ノ裁斷ニ待ツノ外ナシトノコトナリシヲ以テ重ネテ昭和

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 163
http://www.jacar.go.jp

五年二月十四日調査及事業著手期ノ遲レタル理由ヲ述ヘ昭和六年夏頃迄延期アリタキ旨ノ願書ヲ通商代表部利權委員會ニ提出シタル趣ナルモ右ノ結果事件ハ莫斯科ニ移サレタル儘ニシテ今日迄何等解決ヲ見ルニ至ラス。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1164
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議41－1 1165
http://www.jacar.go.jp